

# 18歳意識調査

## 「第79回 -国家安全保障-」

### 報告書

日本財団 2026年4月30日

# 目次

調査概要	3
結果概要	7
1. 平和とその背景への認識	
日本を取り巻く状況	9
日本が平和である主な要因	11
2. 日本にとっての脅威	
今後の日本にとっての脅威	14
他国と武力衝突する可能性	16
軍事的脅威と感じる国	18
対立や問題に対する認知度	20
3. 安全保障政策に対する考え	
注力すべき安全保障政策	23
防衛関係予算に対する考え	29
防衛関係費の増額方針についての考え	31
防衛関係費増額のための方法	33
国内の米軍基地に対する考え	34
4. 自衛隊に対する考え	
自衛隊の活動に対する評価	39
5. 許容される軍事行動	
核兵器に対する考え	44
6. 徴兵制度に対する考え	
徴兵制度導入の是非	49
戦地で戦う可能性	53
戦争・武力衝突時の自身の行動	55
示唆	56

# 第79回18歳意識調査

## 「-国家安全保障-」

本調査では、「平和とその背景への認識」、「日本にとっての脅威」、「安全保障政策に対する考え」、「自衛隊に対する考え」、「許容される軍事行動」、「徴兵制度に対する考え」の6項目について、18歳前後の若者の意識を聴取した。2023年1月にも同様の調査を実施しており、前回との比較を実施した。\*

※3年前と同じアンケートパネルに対して調査を実施したが、回答画面の作りは異なる。

### 調査対象

全国の17歳～19歳男女

### 回答数

1,000

※性年齢別の人口比率に合わせ、下記の通り割り付けを実施。

	17歳	18歳	19歳	計
男性	169	169	175	513
女性	160	161	166	487
計	329	330	341	1,000

### 実施期間

2026年3月19日（木）～3月25日（水）

### 調査手法

インターネット調査

注記1：回答者がインターネット利用者に限られるなど、回答者に何らかの偏りが生じる可能性があり、必ずしも日本全体の17～19歳男女に妥当するものではない。

注記2：本編の図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

# 本報告書内で用いる分析軸

本調査の結果は、性別のほか、質問によっては投票行動別、ボランティア経験別、自衛隊近隣居住経験別、米軍近隣居住経験別に分析を行った。（各ページに以下アイコンで表示）

また、2023年1月に実施した第53回調査結果との時系列比較を行った。

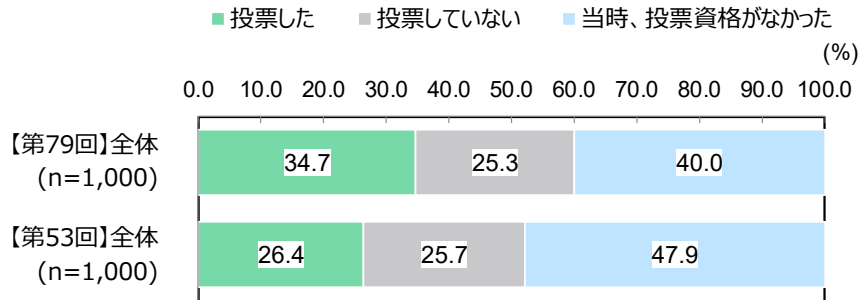
性別	男女別の分析
投票行動別	2026年2月の衆議院議員選挙での投票行動別
ボランティア 経験別	過去3年以内のボランティア経験別
自衛隊近隣 居住経験別	自衛隊基地・駐屯地近くの自治体での居住経験別
米軍近隣 居住経験別	米軍基地・駐屯地近くの自治体での居住経験別
時系列	第79回と第53回の比較（上記いずれかの分析軸との組合せ）

# 【参考】分析軸「投票行動別」「ボランティア経験別」「自衛隊近隣居住経験別」「米軍近隣居住経験別」について

以下の質問への回答別に分析を行った。

## 投票行動別

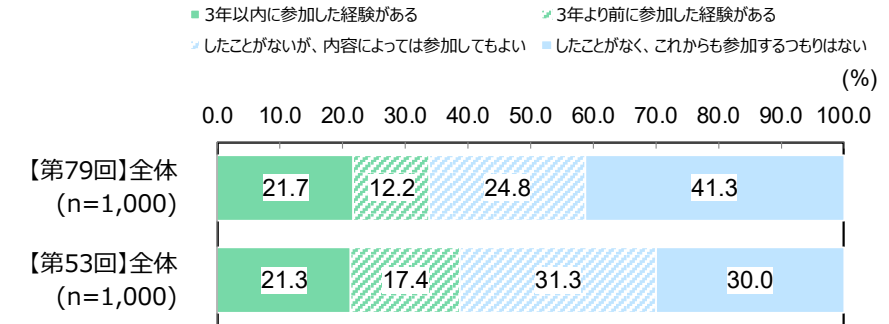
質問22：2026年2月の衆議院議員選挙で、あなたは投票をしましたか。（選択式（単一））



※第53回では、2022年7月の参議院議員選挙について聴取

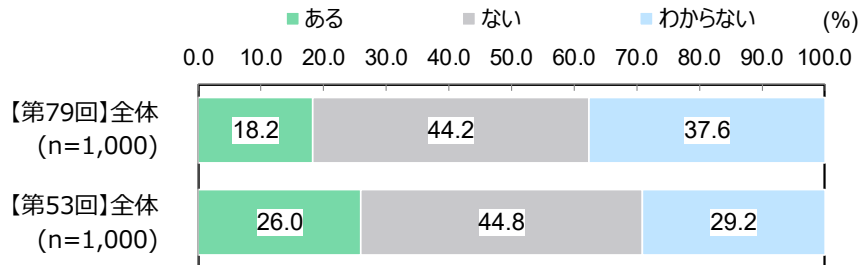
## ボランティア経験別

質問24：ボランティア活動に参加した経験がありますか。（選択式（単一））

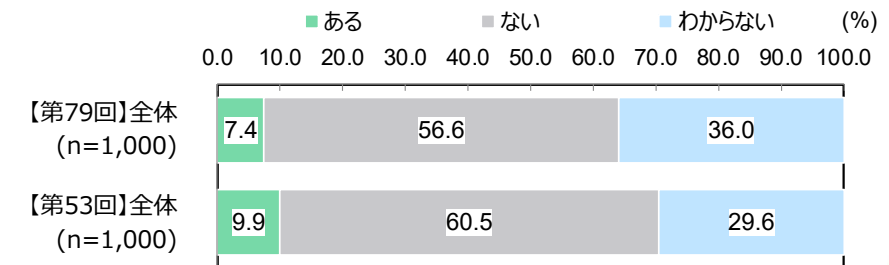


## 自衛隊近隣居住経験別

質問25：あなたが生まれ育った自治体（市区町村）や今住んでいる自治体（同）の近くに、自衛隊の基地や駐屯地、米軍基地がありますか。（選択式（単一））



## 米軍近隣居住経験別



# 【参考】分析軸「時系列」（第53回調査）について

今回（第79回）調査結果との比較を行った、第53回調査の実施概要は以下のとおり。

## 調査対象

全国の17歳～19歳男女

## 回答数

1,000

※性年齢別の人口比率に合わせ、下記の通り割り付けを実施。

	17歳	18歳	19歳	計
男性	168	170	176	514
女性	159	160	167	486
計	327	330	343	1,000

## 実施期間

2023年1月11日（水）～1月16日（月）

## 調査手法

インターネット調査

注記1：回答者がインターネット利用者に限られるなど、回答者に何らかの偏りが生じる可能性があり、必ずしも日本全体の17～19歳男女に妥当するものではない。

注記2：本編の図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

注記3：第53回、第79回ともに同じアンケートパネルに対して調査を実施（ただし、回答画面の作りは異なる）。

# 第79回18歳意識調査「-国家安全保障-」

## 結果概要

- |          |                     |   |
|----------|---------------------|---|
| <b>1</b> | <b>平和とその背景への認識</b>  | <ul style="list-style-type: none"><li>① 今の日本を取り巻く状況を「平和である」と回答した割合は3年前から16pt減少。</li><li>② 日本が平和である主な要因だと思うものの1位は、「非核三原則の存在」で3年前と同様。前回3位だった「日米同盟」の存在が7pt減少して5位に変化した一方で、「自衛隊の存在」が9pt増加して2位となった。</li></ul> |
| <b>2</b> | <b>日本にとっての脅威</b>    | <ul style="list-style-type: none"><li>① 今後5年間で日本が他国と武力衝突をする可能性が50%以上あると見ている人は、全体の30%程度で3年前と同程度である一方、「わからない」と回答した人が8pt増加。</li></ul>  |
| <b>3</b> | <b>安全保障政策に対する考え</b> | <ul style="list-style-type: none"><li>① 日本の防衛関係予算の水準や防衛関係費の増額方針、国内の米軍基地に対する考えについて、「わからない」が増加。</li></ul>   |
| <b>4</b> | <b>自衛隊に対する考え</b>    | <ul style="list-style-type: none"><li>① 自衛隊の活動について、「評価する」と回答した人は減少傾向。</li><li>② ただし、自衛隊の基地・駐屯地近隣自治体での居住経験が「ある」と回答した人は、自衛隊の活動に対する肯定的な評価があまり減少していない。</li></ul>  |
| <b>5</b> | <b>許容される軍事行動</b>    | <ul style="list-style-type: none"><li>① 仮に日本が核兵器に対する姿勢を見直す場合の、核兵器の国内製造、輸入核兵器の保有、国内での同盟国による核兵器の配備に対する考え方は、3年前はいずれの方法とも「行っても良い」と回答した割合は男性が女性を上回っていたが、男性では減少した一方、女性では増加し、男女差が縮小。</li></ul>                 |
| <b>6</b> | <b>徴兵制度に対する考え</b>   | <ul style="list-style-type: none"><li>① 徴兵制に反対する人は全体の80%弱に上るも、男女ともに賛成する人は3年前よりも増加傾向。</li><li>② 全体の40%～50%が、戦争・武力衝突などが生じた時に何等かの方法で協力すると回答。</li></ul>   |

# 詳細

1. 平和とその背景への認識
2. 日本にとっての脅威
3. 安全保障政策に対する考え
4. 自衛隊に対する考え
5. 許容される軍事行動
6. 徴兵制度に対する考え

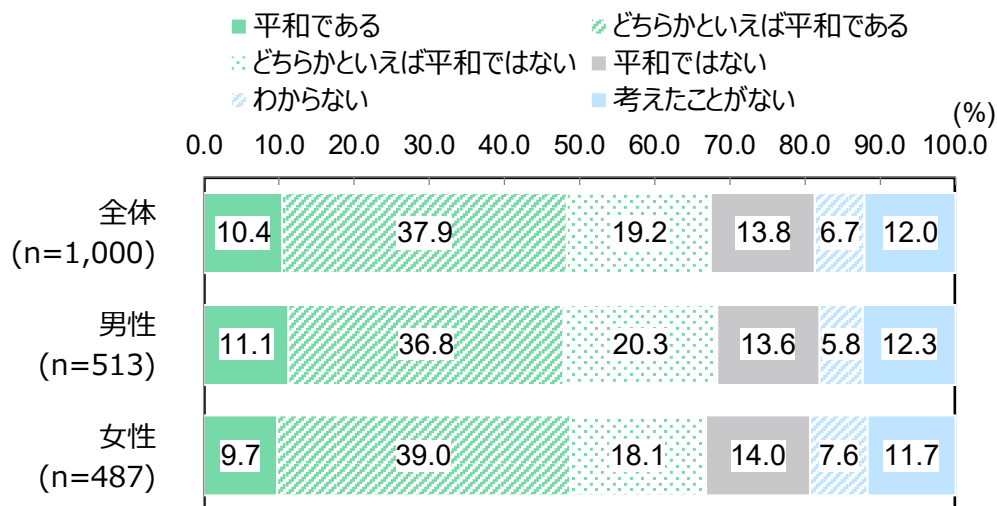
## 日本を取り巻く状況

全体の50%弱が日本を取り巻く状況を「平和である」(※1)、30%強が「平和ではない」(※2)と回答。男女別に大きな差は見られない。

※1「平和である」と「どちらかといえば平和である」の合計。

※2「どちらかといえば平和ではない」と「平和ではない」の合計。

質問6：あなたは、今の日本を取り巻く状況をどのように捉えていますか。(選択式(単一))



# 日本を取り巻く状況

今の日本を取り巻く状況を「平和である」(※)と回答した人は、第53回では全体の64%であったが、第79回では48%となり、16pt減少した。男女別でも同様の傾向。

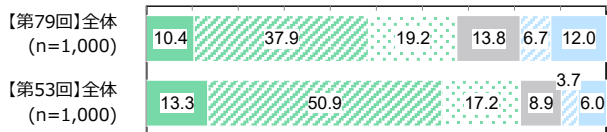
※「平和である」と「どちらかといえば平和である」の合計。

質問6：あなたは、今の日本を取り巻く状況をどのように捉えていますか。(選択式(単一))

## 全体

- 平和である
- ▨ どちらかといえば平和である
- ▩ どちらかといえば平和ではない
- 平和ではない
- ▨ わからない
- ▩ 考えたことがない

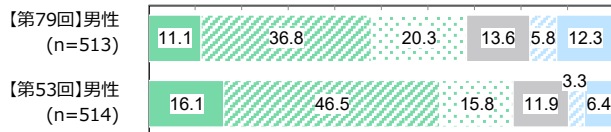
(%)  
0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 80.0 90.0 100.0



## 男性

- 平和である
- ▨ どちらかといえば平和である
- ▩ どちらかといえば平和ではない
- 平和ではない
- ▨ わからない
- ▩ 考えたことがない

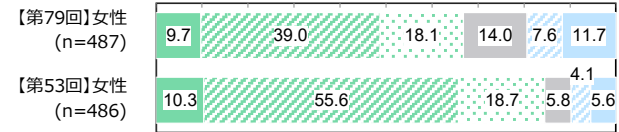
(%)  
0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 80.0 90.0 100.0



## 女性

- 平和である
- ▨ どちらかといえば平和である
- ▩ どちらかといえば平和ではない
- 平和ではない
- ▨ わからない
- ▩ 考えたことがない

(%)  
0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 80.0 90.0 100.0

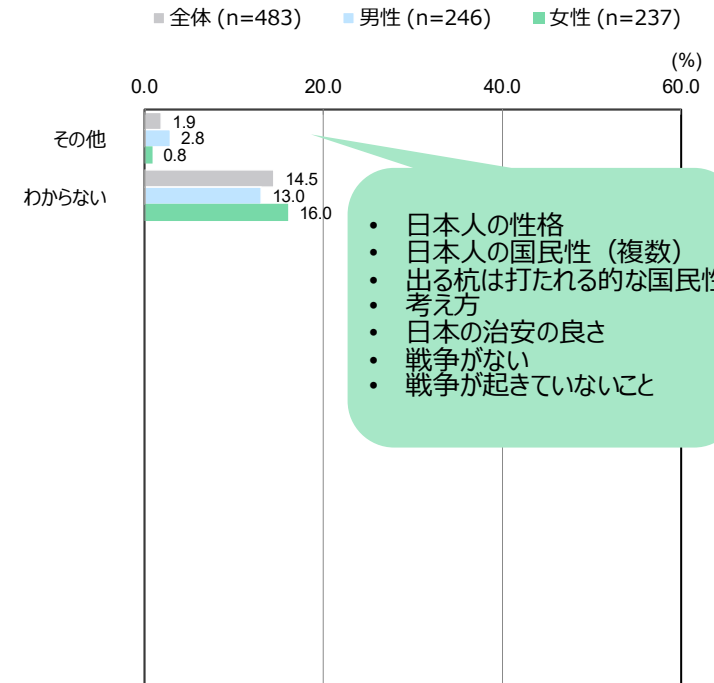
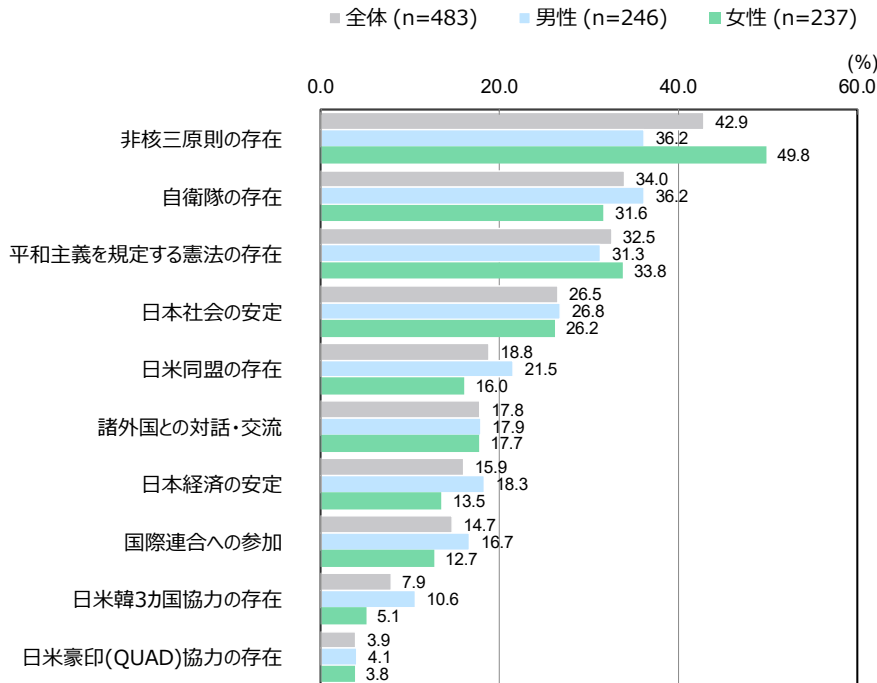


# 日本が平和である主な要因

今の日本を取り巻く状況を「平和である」(※)と回答した人に対し、日本が平和である主な要因を尋ねたところ、男性では「非核三原則の存在」「自衛隊の存在」が同率で1位で、「平和主義を規定する憲法の存在」が続く。女性では、「非核三原則の存在」が突出して1位で、「平和主義を規定する憲法の存在」「自衛隊の存在」が続く。

※1「平和である」と「どちらかといえば平和である」の合計。

質問7：日本が平和である主な要因は何だと思いますか。3つまで選んでください。(選択式(複数))

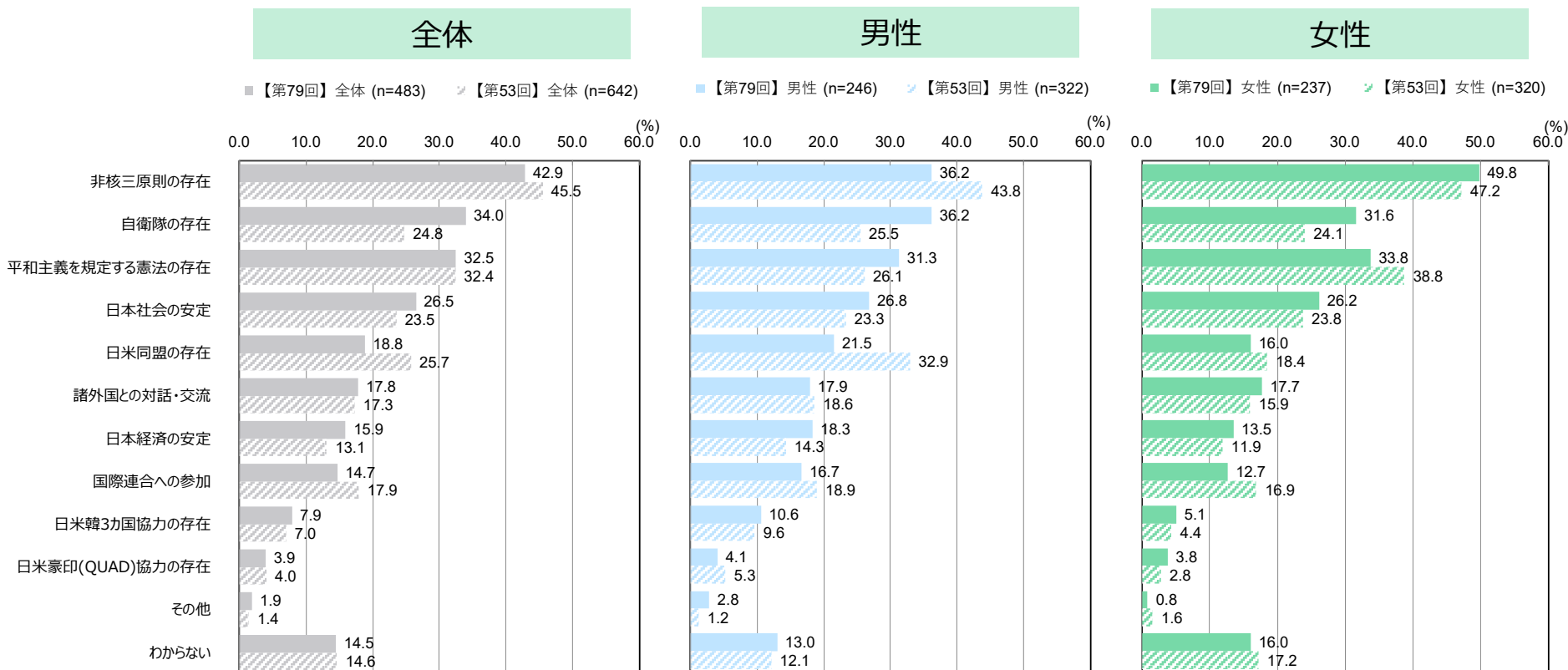


- 日本人の性格
- 日本人の国民性 (複数)
- 出る杭は打たれる的な国民性
- 考え方
- 日本の治安の良さ
- 戦争がない
- 戦争が起きていないこと

# 日本が平和である主な要因

全体では、日本が平和である主な要因だと思うものの1位は、「非核三原則の存在」で3年前と同様。第53回では3位だった「日米同盟の存在」が7pt減少して5位に変化した一方で、「自衛隊の存在」が9pt増加して9位となった。

質問7：日本が平和である主な要因は何だと思いますか。3つまで選んでください。（選択式（複数））



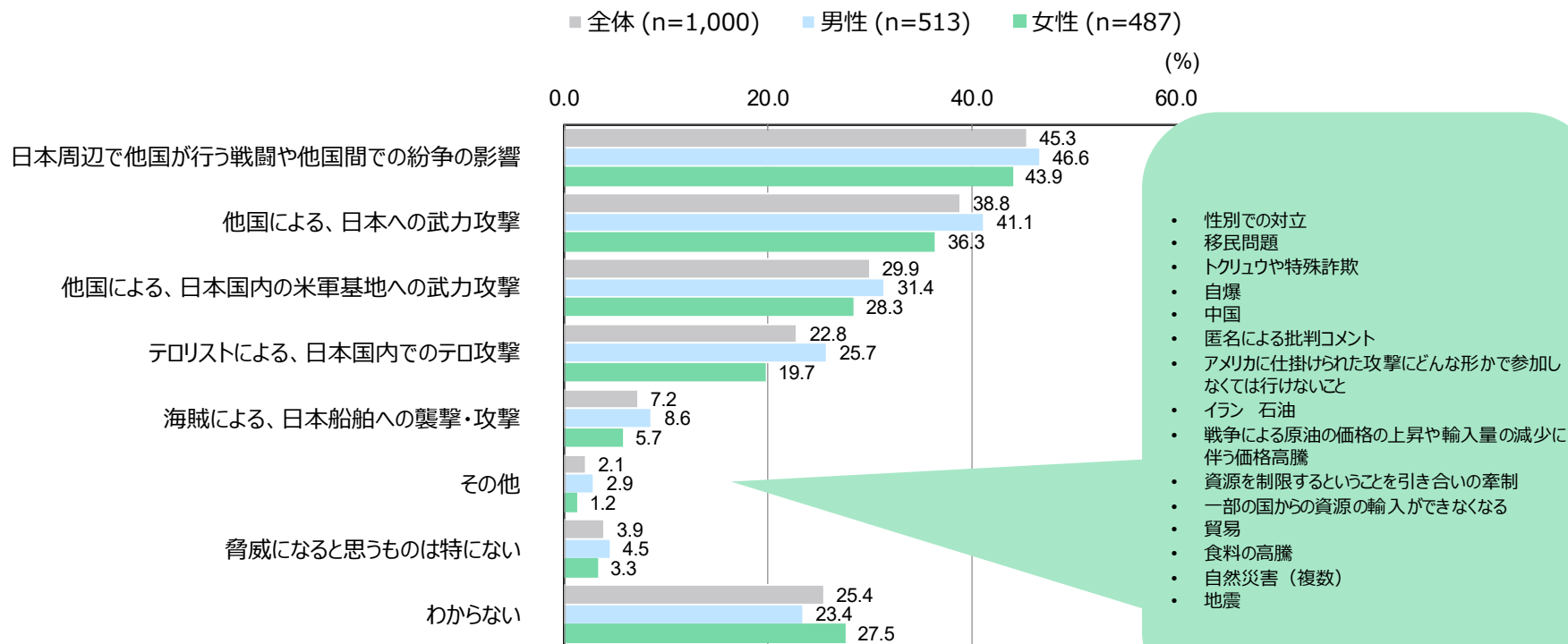
# 詳細

1. 平和とその背景への認識
2. 日本にとっての脅威
3. 安全保障政策に対する考え
4. 自衛隊に対する考え
5. 許容される軍事行動
6. 徴兵制度に対する考え

# 今後の日本にとっての脅威

日本にとって、今後5年間で脅威になると思うものは、男女ともに「日本周辺で他国が行う戦闘や多国間での紛争の影響」が最も多く、「他国による、日本への武力攻撃」「他国による、日本国内の米軍基地への武力攻撃」が続く。

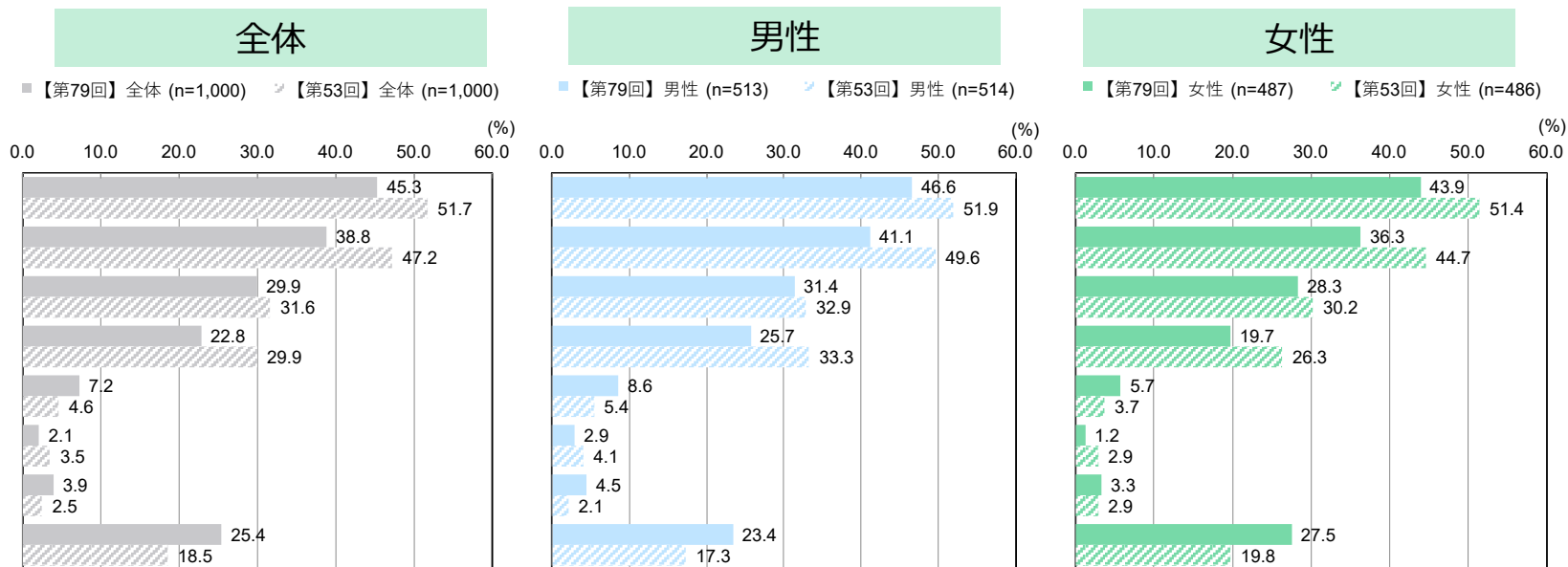
質問8：日本にとって、今後5年間で脅威になると思うものは次のうちどれですか。3つまで選んでください。  
(選択式(複数))



# 今後の日本にとっての脅威

日本にとって、今後5年間で脅威になると思うものの上位は第53回と第79回で変わらないものの、各項目を選択した人の割合は減少し、「わからない」が増加した。

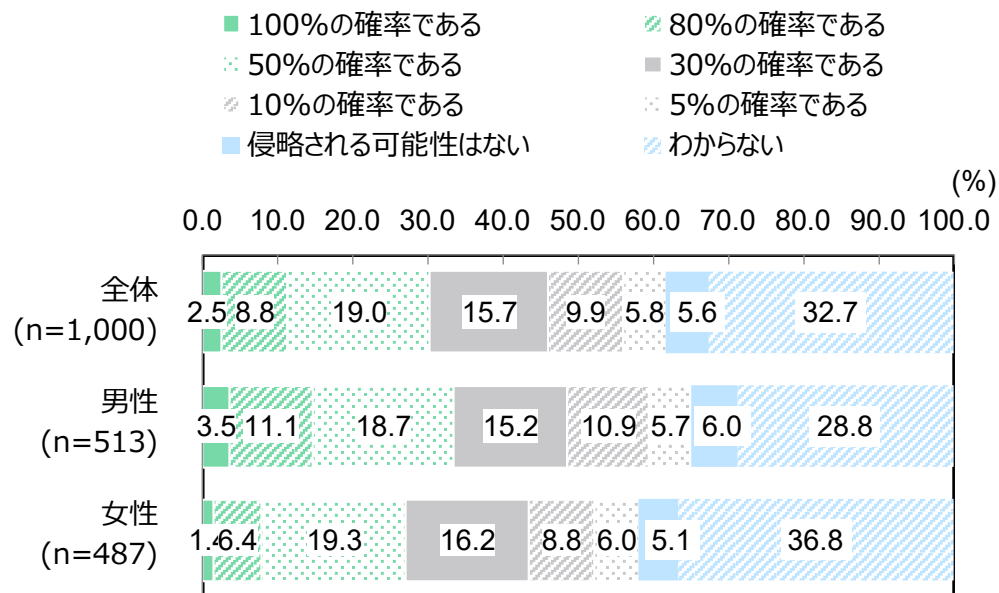
質問8：日本にとって、今後5年間で脅威になると思うものは次のうちどれですか。3つまで選んでください。  
(選択式(複数))



## 他国と武力衝突する可能性

今後5年間で日本が他国と武力衝突をする可能性が50%以上あると思っている人は、男性で33%、女性で27%。「わからない」と回答した人は、男性で29%、女性で37%。

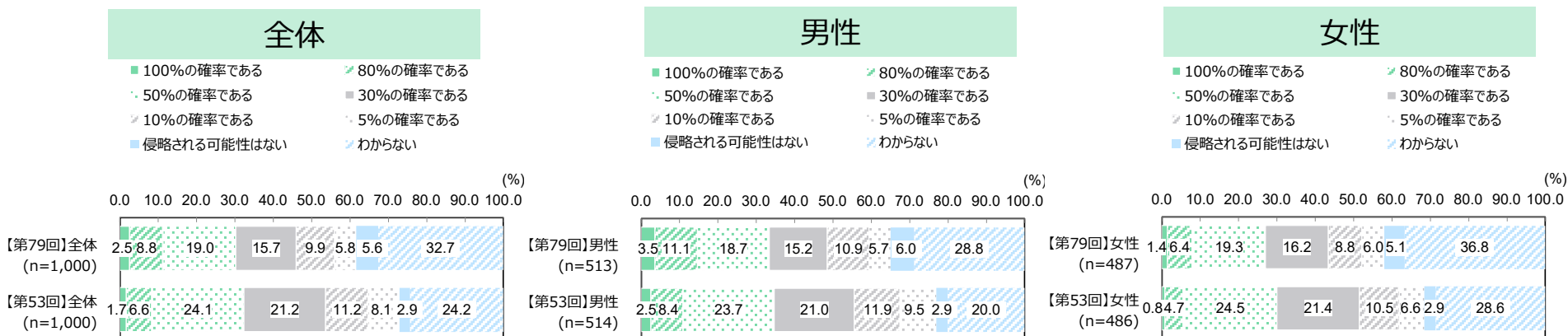
質問9：今後5年間で、日本が他国と武力衝突をする可能性はどれくらいあると思いますか。（選択式（単一））



# 他国と武力衝突する可能性

今後5年間で日本が他国と武力衝突をする可能性が50%以上あると見ている人は、全体の30%程度で3年前と同程度である一方、「わからない」と回答した人が8 pt増加。

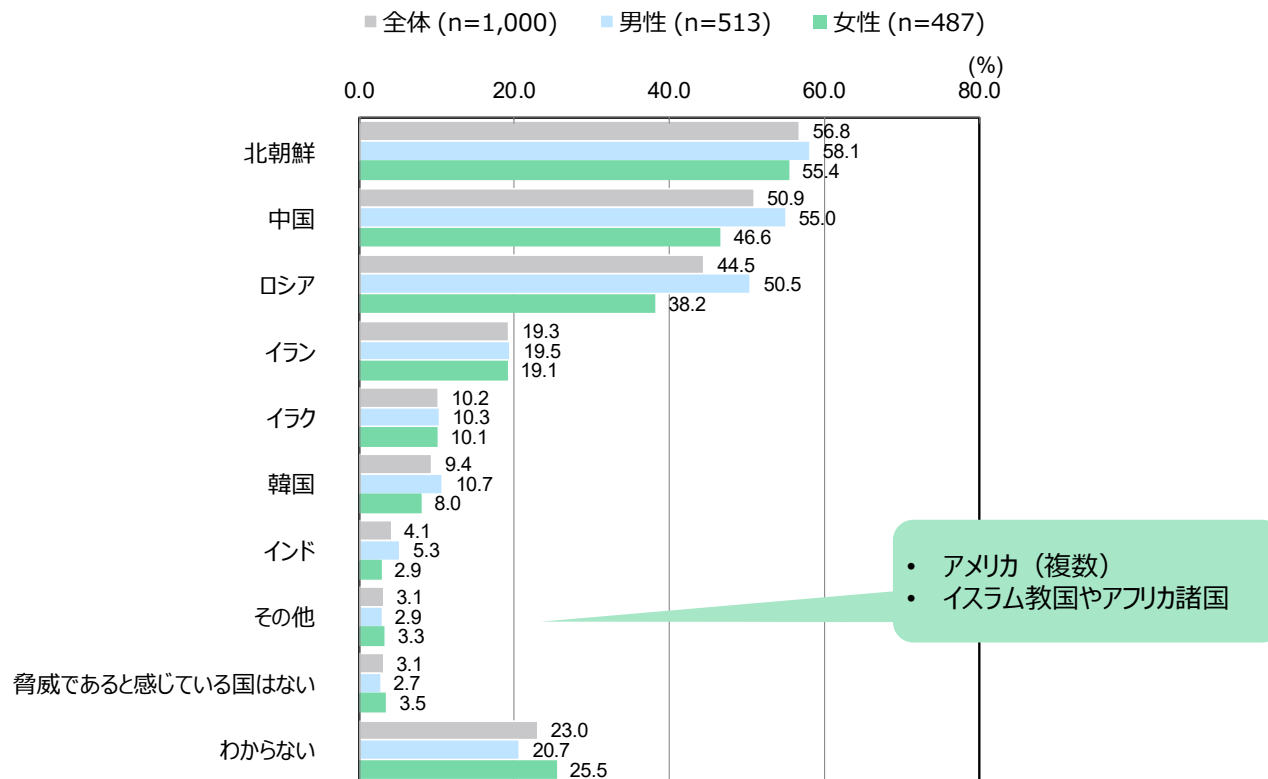
質問9：今後5年間で、日本が他国と武力衝突をする可能性はどれくらいあると思いますか。（選択式（単一））



# 軍事的脅威と感ずる国

日本にとって軍事的脅威であると感じている国は、男女ともに「北朝鮮」が最も多く、「中国」、「ロシア」が続く。

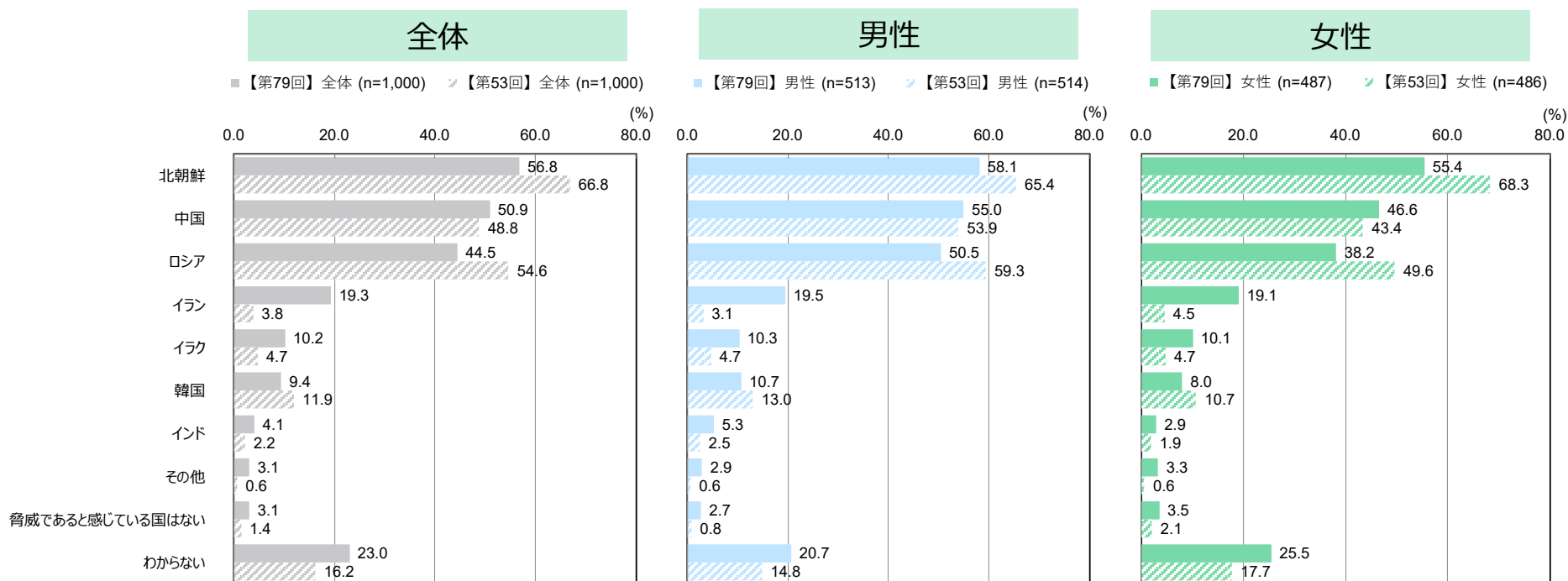
質問10：以下の国のうち、あなたが日本にとっての軍事的脅威であると感じている国を全て選んで下さい。（選択式（複数））



# 軍事的脅威と感ずる国

男女ともに、上位3位は第53回と第79回で変化なし。また、「北朝鮮」「ロシア」が減少した一方、「イラン」が大幅に増加して4位に上昇。

質問10：以下の国のうち、あなたが日本にとっての軍事的脅威であると感じている国を全て選んで下さい。（選択式（複数））



# 対立や問題に対する認知度

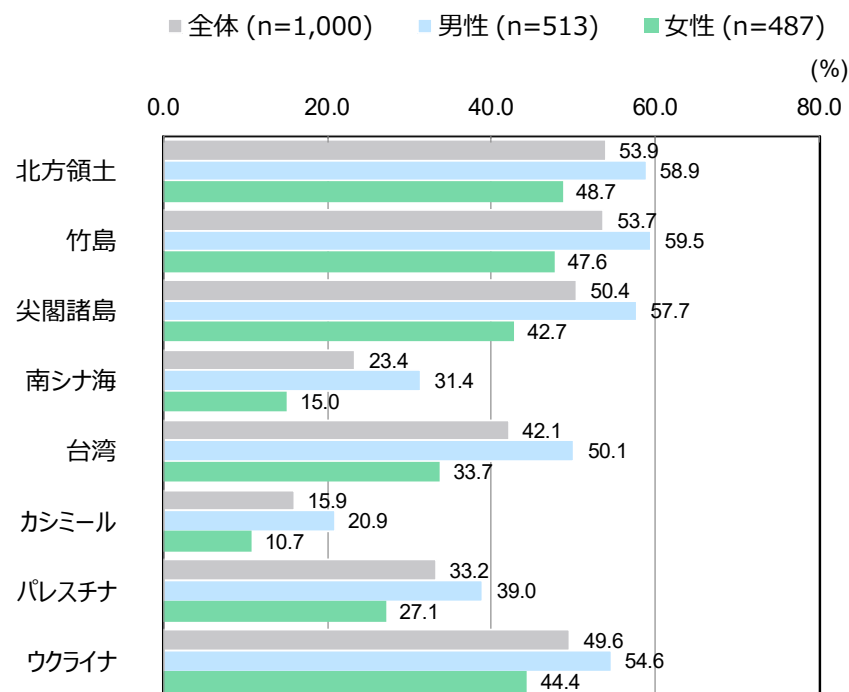
各地域で生じている対立や問題の認知度（※）は、「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」「ウクライナ」が全体の50%前後と高くなっている。

いずれの地域においても、女性よりも男性の方が認知度が10pt以上高い。

※「内容を知っている（主な理由や関係国など）」と回答した人

質問11：以下の地域では、主権を巡って意見の対立や不法占拠の問題などが起きています。それぞれの対立や問題について、あなたはどの程度知っていますか。（選択式（単一））

「内容を知っている（主な理由や関係国など）」と回答した人の割合

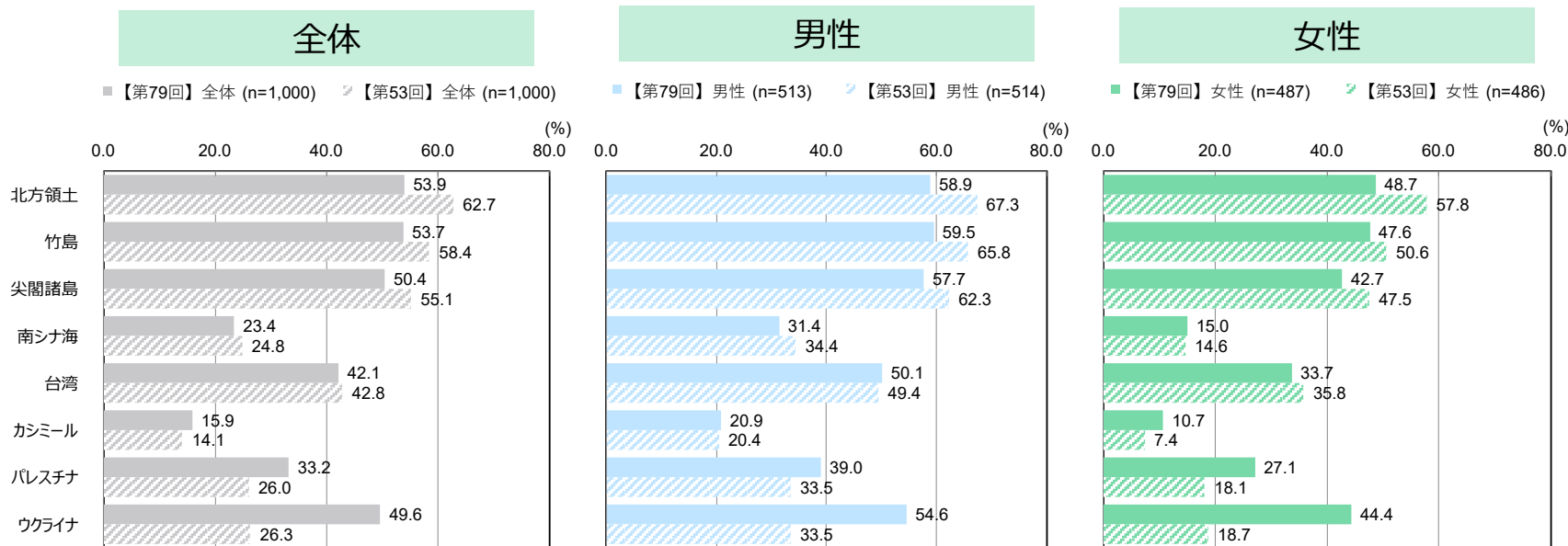


# 対立や問題に対する認知度

男女ともに、日本が関係する「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」は「内容を知っている（主な理由や関係国など）」と回答した人の割合が減少した一方、「ウクライナ」「パレスチナ」は増加。

質問11：以下の地域では、主権を巡って意見の対立や不法占拠の問題などが起きています。それぞれの対立や問題について、あなたはどの程度知っていますか。（選択式（単一））

「内容を知っている（主な理由や関係国など）」と回答した人の割合



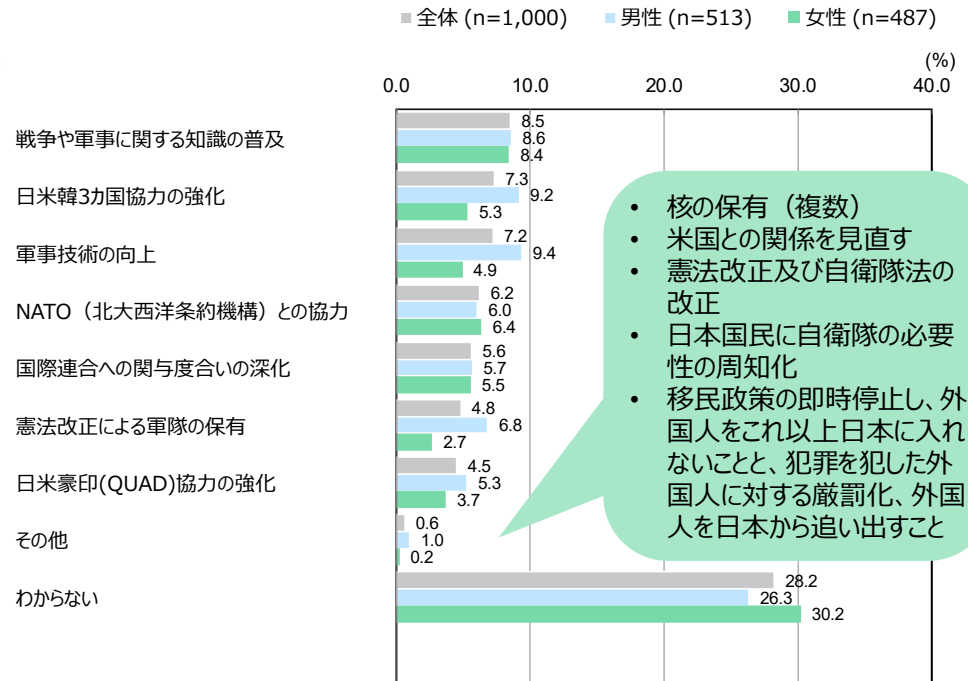
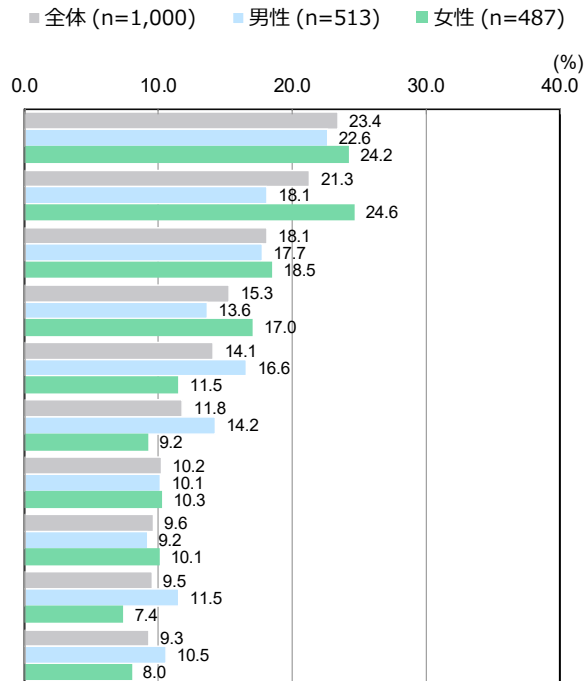
# 詳細

1. 平和とその背景への認識
2. 日本にとっての脅威
3. 安全保障政策に対する考え
4. 自衛隊に対する考え
5. 許容される軍事行動
6. 徴兵制度に対する考え

## 注力すべき安全保障政策

男性では「日本経済の安定」が最も多く、「非核三原則の維持」、「日本社会の安定」が続く。  
女性では「非核三原則の維持」が最も多く、「日本経済の安定」、「日本社会の安定」が続く。

質問12：日本が自国の平和を維持するため、今後注力すべき安全保障政策は次のうちどれだと考えますか。3つまで選んでください。（選択式（複数））



※「その他」「わからない」を除き、「全体」の降順で掲載。

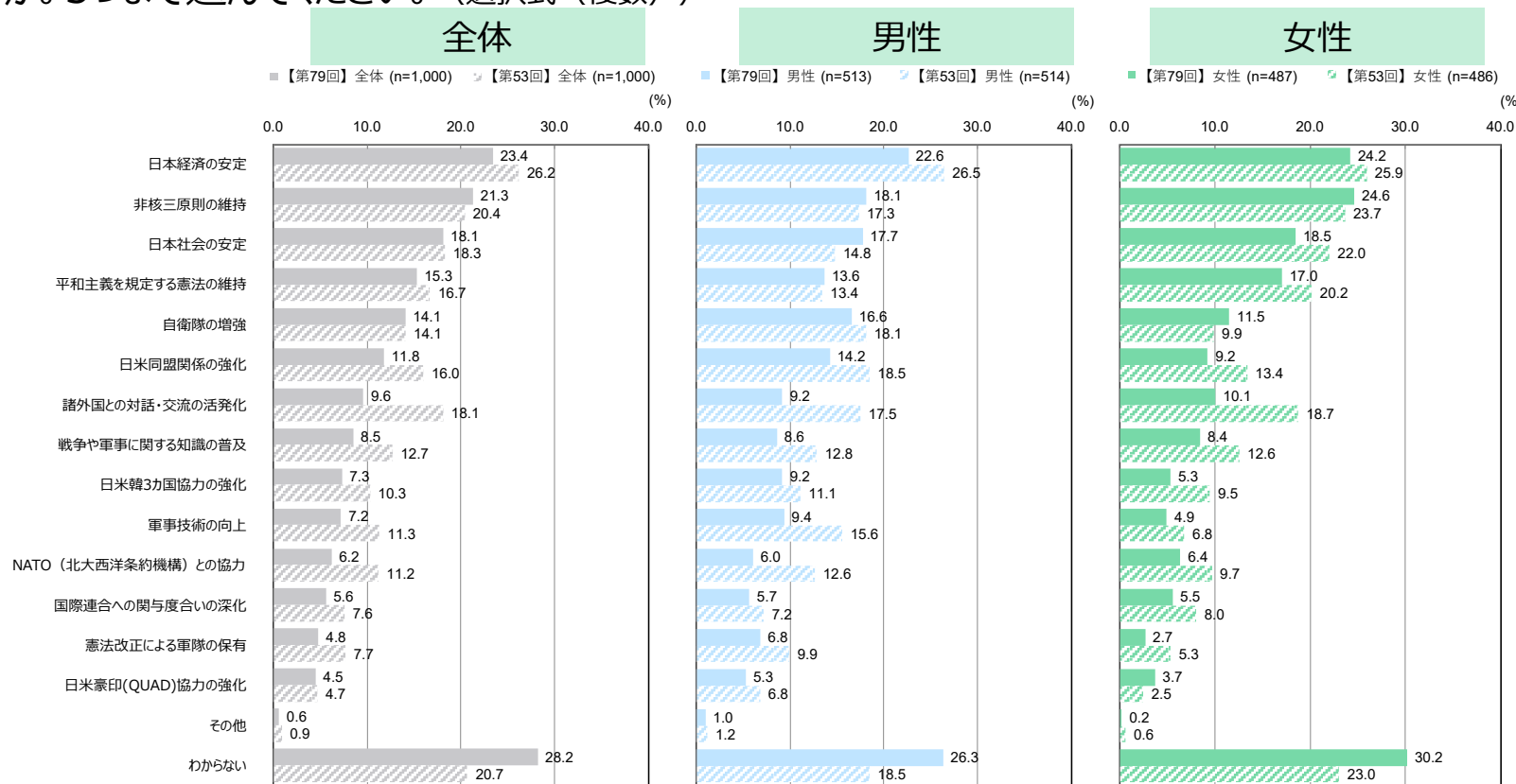
※「重要物資の安定供給」、「サイバー防衛体制の強化」、「エネルギー安全保障の強化」は第79回から聴取。

※豪 = オーストラリア、印 = インド

# 注力すべき安全保障政策

全体では、「諸外国との対話・交流の活発化」が8 pt減少した一方、「わからない」が7 pt増加。男女別でも同様の傾向。

質問12：日本が自国の平和を維持するため、今後注力すべき安全保障政策は次のうちどれだと考えますか。3つまで選んでください。（選択式（複数））



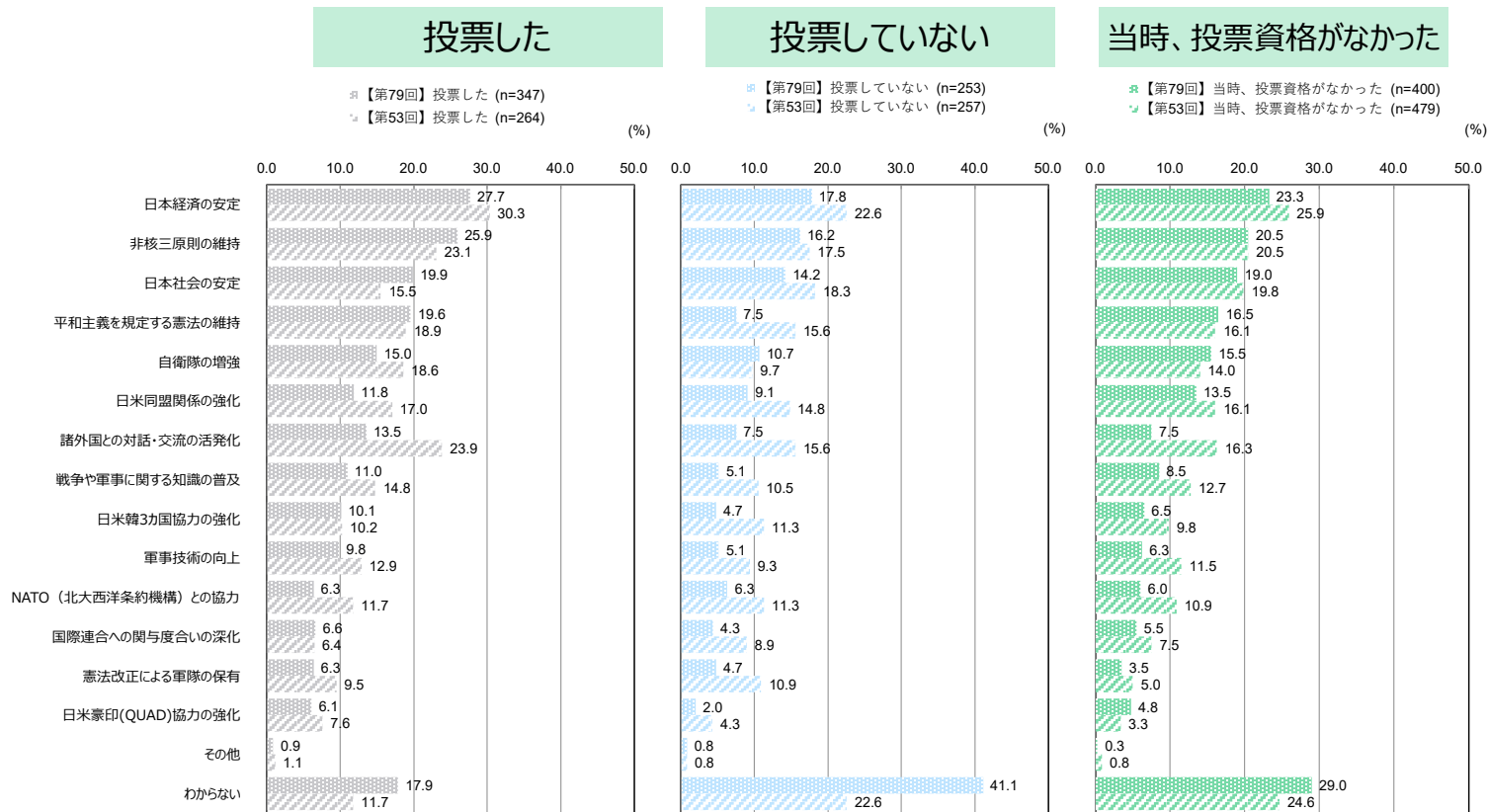
※「その他」「わからない」を除き、第79回「全体」の降順で掲載。（※第79回のみ聴取した項目は除外）

※「非核三原則の維持」「日米間3カ国協力の強化」「日米豪印（QUAD）協力の強化」は、第53回ではそれぞれ「非核三原則の存在」「日米間3カ国協力の存在」「日米豪印（QUAD）協力の存在」として聴取。

# 注力すべき安全保障政策

直近の国政選挙で「投票した」と回答した人は、「投票していない」と回答した人と比較して「わからない」と回答した割合が低い。ただし、「投票した」と回答したグループにおいても、「わからない」は増加している。

質問12：日本が自国の平和を維持するため、今後注力すべき安全保障政策は次のうちどれだと考えますか。3つまで選んでください。（選択式（複数））



# 注力すべき安全保障政策

ボランティア参加経験や参加意向のある人は、参加経験も意向もない人と比較して「わからない」と回答した割合が低い。ただし、「3年以内に参加した経験がある」と回答したグループにおいても、「わからない」は増加している。

質問12：日本が自国の平和を維持するため、今後注力すべき安全保障政策は次のうちどれだと考えますか。3つまで選んでください。（選択式（複数））

3年以内に参加した  
経験がある

- 【第79回】 3年以内に参加した経験がある (n=217)
- 【第53回】 3年以内に参加した経験がある (n=213)

3年より前に参加した  
経験がある

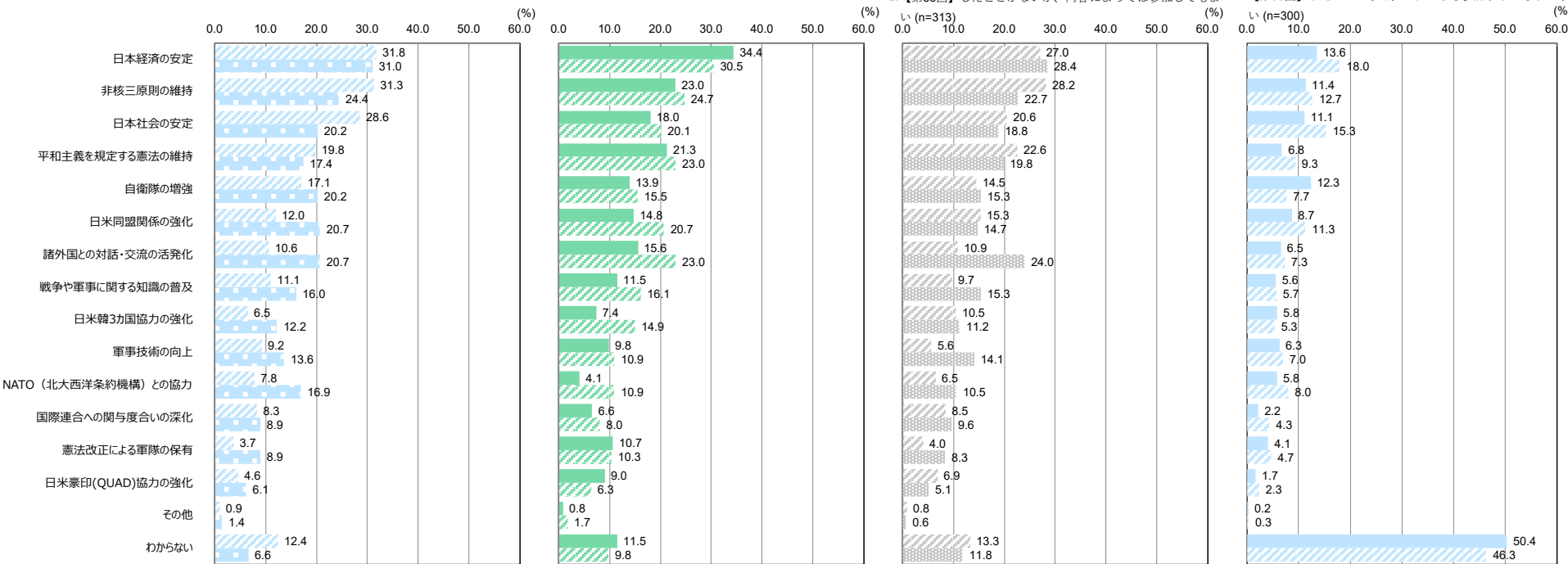
- 【第79回】 3年より前に参加した経験がある (n=122)
- 【第53回】 3年より前に参加した経験がある (n=174)

したことがないが、内容に  
よっては参加してもよい

- 【第79回】 したことがないが、内容によっては参加してもよい (n=248)
- 【第53回】 したことがないが、内容によっては参加してもよい (n=313)

したことがなく、これからも  
参加するつもりはない

- 【第79回】 したことがなく、これからも参加するつもりはない (n=413)
- 【第53回】 したことがなく、これからも参加するつもりはない (n=300)



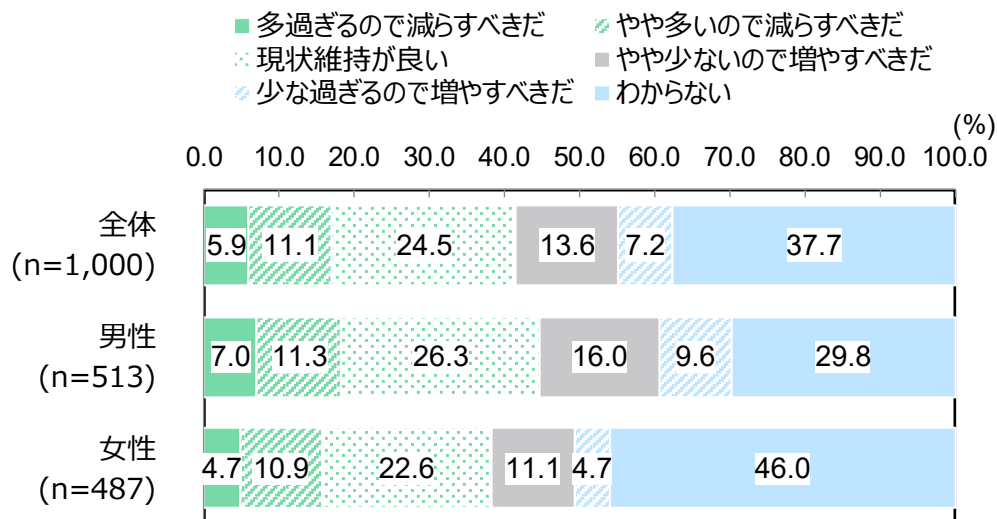
※「その他」「わからない」を除き、第79回「全体」の降順で掲載。（※第79回のみ聴取した項目は除外）

※「非核三原則の維持」「日米間3カ国協力の強化」「日米豪印（QUAD）協力の強化」は、第53回ではそれぞれ「非核三原則の存在」「日米間3カ国協力の存在」「日米豪印（QUAD）協力の存在」として聴取。

## 防衛関係予算に対する考え

男女ともに「わからない」が最も多く、特に女性では半数近くが選択。  
「わからない」以外では、男女ともに「現状維持が良い」が最多で、男性の26%、女性の23%が選択。

質問13：2024年度の日本の防衛関係予算は、807億ドル、対GDP比では1.27%です。あなたはこの割合について、どのように考えますか。（選択式（単一））



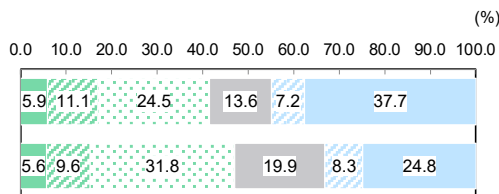
# 防衛関係予算に対する考え

男女ともに、第53回と比較して「現状維持が良い」「やや少ないので増やすべきだ」「少な過ぎるので増やすべきだ」が減り、「わからない」が大幅に増加。

質問13：2024年度の日本の防衛関係予算は、807億ドル、対GDP比では1.27%です。あなたはこの割合について、どのように考えますか。（選択式（単一））

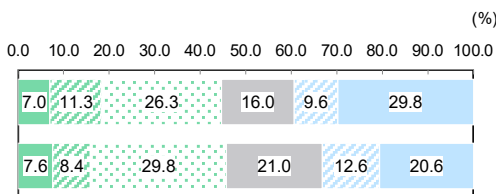
## 全体

- 多過ぎるので減らすべきだ
- ▲ やや多いので減らすべきだ
- 現状維持が良い
- やや少ないので増やすべきだ
- ▲ 少な過ぎるので増やすべきだ
- わからない



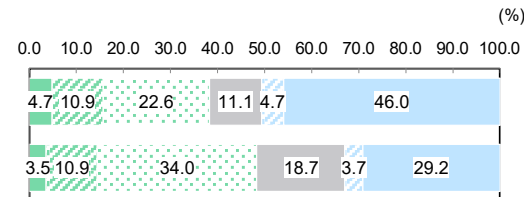
## 男性

- 多過ぎるので減らすべきだ
- ▲ やや多いので減らすべきだ
- 現状維持が良い
- やや少ないので増やすべきだ
- ▲ 少な過ぎるので増やすべきだ
- わからない



## 女性

- 多過ぎるので減らすべきだ
- ▲ やや多いので減らすべきだ
- 現状維持が良い
- やや少ないので増やすべきだ
- ▲ 少な過ぎるので増やすべきだ
- わからない



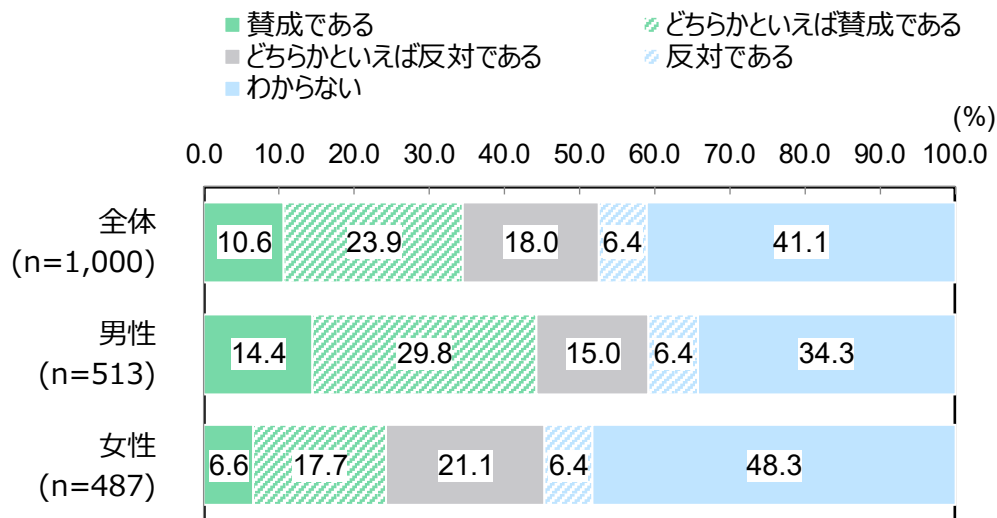
## 防衛関係費の増額方針についての考え

男女ともに「わからない」が最も多く、特に女性では半数近くが選択。  
「わからない」以外では、男性は「賛成である」(※1)が「反対である」(※2)よりも多い一方、女性では「反対である」(※2)の方がやや多い。

※1「賛成である」と「どちらかといえば賛成である」の合計。

※2「どちらかといえば反対である」と「反対である」の合計。

質問14：2026年度政府予算案で、防衛関係費が初めて9兆円を超えました。あなたは防衛関係費を増やす政府のこの方針について、どのように考えますか。(選択式(単一))



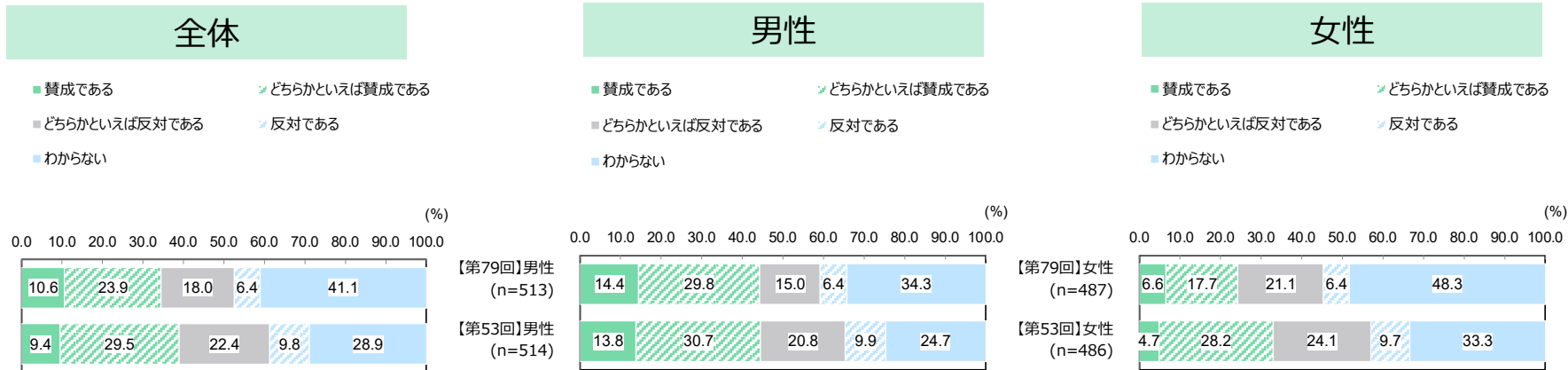
※第53回は、「政府は2023～27年度の防衛関連経費の総額を43兆円とする方針で、27年度以降に必要な年4兆円の増加分のうち、1兆円強を増税でまかなう考えを示しています。あなたは防衛関連経費を増やす政府のこの方針について、どのように考えますか。」と聴取。

# 防衛関係費の増額方針についての考え

男性では、「反対である」(※)が減少し、「わからない」が増加した。女性では、「反対である」(※)に加えて「どちらかといえば賛成である」も減少し、「わからない」が増加した。

※「どちらかといえば反対である」と「反対である」の合計。

質問14：2026年度政府予算案で、防衛関係費が初めて9兆円を超えました。あなたは防衛関係費を増やす政府のこの方針について、どのように考えますか。(選択式(単一))



※第53回は、「政府は2023～27年度の防衛関連経費の総額を43兆円とする方針で、27年度以降に必要な年4兆円の増加分のうち、1兆円強を増税でまかなう考えを示しています。あなたは防衛関連経費を増やす政府のこの方針について、どのように考えますか。」と聴取。

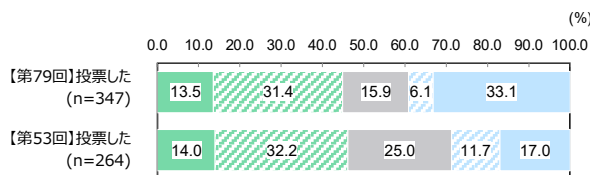
# 防衛関係費の増額方針についての考え

直近の国政選挙で「投票した」と回答した人は、「投票していない」と回答した人と比較して「わからない」と回答した割合が低い。ただし、「投票した」と回答したグループにおいても、「わからない」は増加している。

質問14：2026年度政府予算案で、防衛関係費が初めて9兆円を超えました。あなたは防衛関係費を増やす政府のこの方針について、どのように考えますか。（選択式（単一））

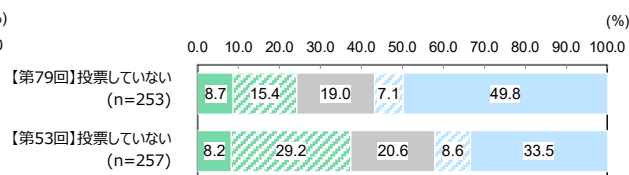
## 投票した

- 賛成である
- どちらかといえば賛成である
- どちらかといえば反対である
- 反対である
- わからない



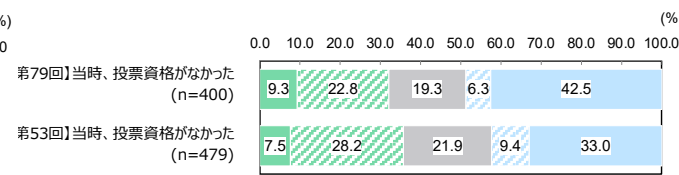
## 投票していない

- 賛成である
- どちらかといえば賛成である
- どちらかといえば反対である
- 反対である
- わからない



## 当時、投票資格がなかった

- 賛成である
- どちらかといえば賛成である
- どちらかといえば反対である
- 反対である
- わからない



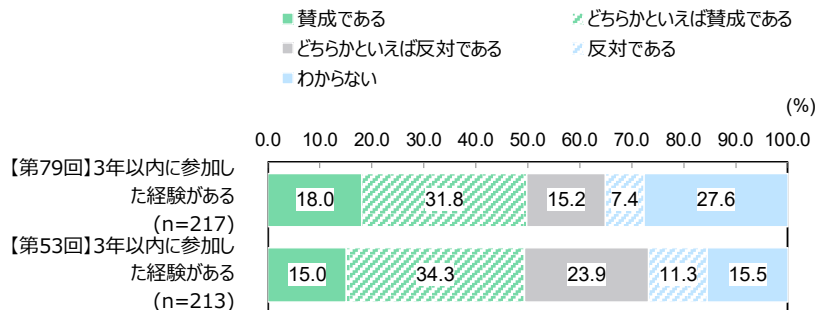
※第53回は、「政府は2023～27年度の防衛関連経費の総額を43兆円とする方針で、27年度以降に必要となる年4兆円の増加分のうち、1兆円強を増税でまかなう考えを示しています。あなたは防衛関連経費を増やす政府のこの方針について、どのように考えますか。」と聴取。

# 防衛関係費の増額方針についての考え

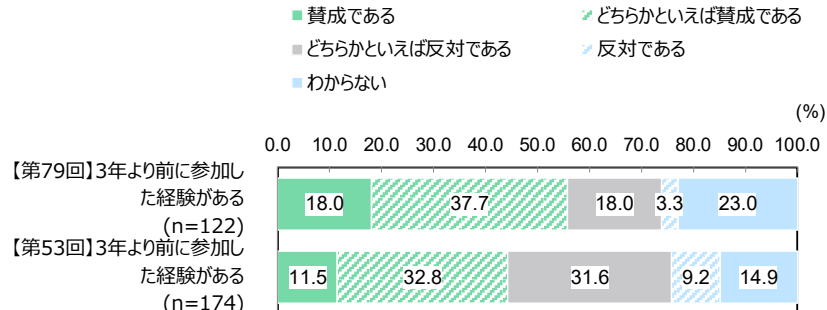
ボランティア参加経験や参加意向のある人は、参加経験も意向もない人と比較して「わからない」と回答した割合が低い。ただし、参加経験や参加意向があると回答したグループにおいても、「わからない」は増加している。

質問14：2026年度政府予算案で、防衛関係費が初めて9兆円を超えました。あなたは防衛関係費を増やす政府のこの方針について、どのように考えますか。（選択式（単一））

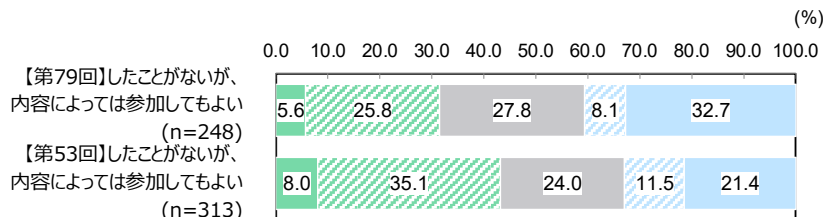
## 3年以内に参加した経験がある



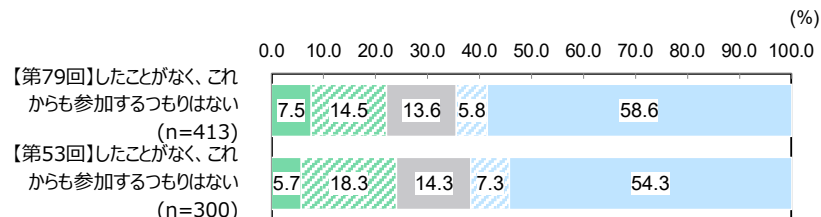
## 3年より前に参加した経験がある



## したことがないが、内容によっては参加してもよい



## したことがなく、これからも参加するつもりはない



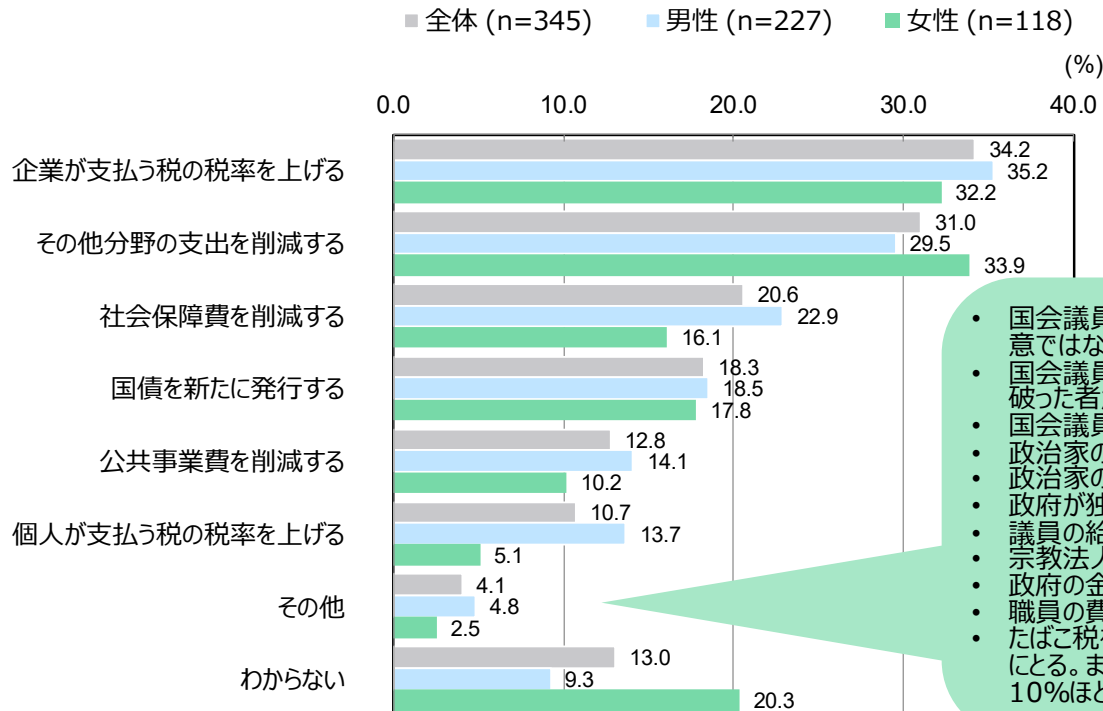
※第53回は、「政府は2023～27年度の防衛関連経費の総額を43兆円とする方針で、27年度以降に必要な年4兆円の増加分のうち、1兆円強を増税でまかなう考えを示しています。あなたは防衛関連経費を増やす政府のこの方針について、どのように考えますか。」と聴取。

# 防衛関係費増額のための方法

防衛関係費の増額に「賛成である」(※)と答えた人に対し、そのための方法を尋ねたところ、男性では「企業が支払う税の税率をあげる」が最も多く、「その他分野の支出を削減する」「社会保障費を削減する」が続く。女性では「その他分野の支出を削減する」が最も多く、「企業が支払う税の税率を上げる」「国債を新たに発行する」が続く。

※「賛成である」と「どちらかといえば賛成である」の合計。

質問15：防衛関係費の増額のため、次に示すどの方法をとるべきだと思いますか。2つまで選んでください。(選択式(複数))



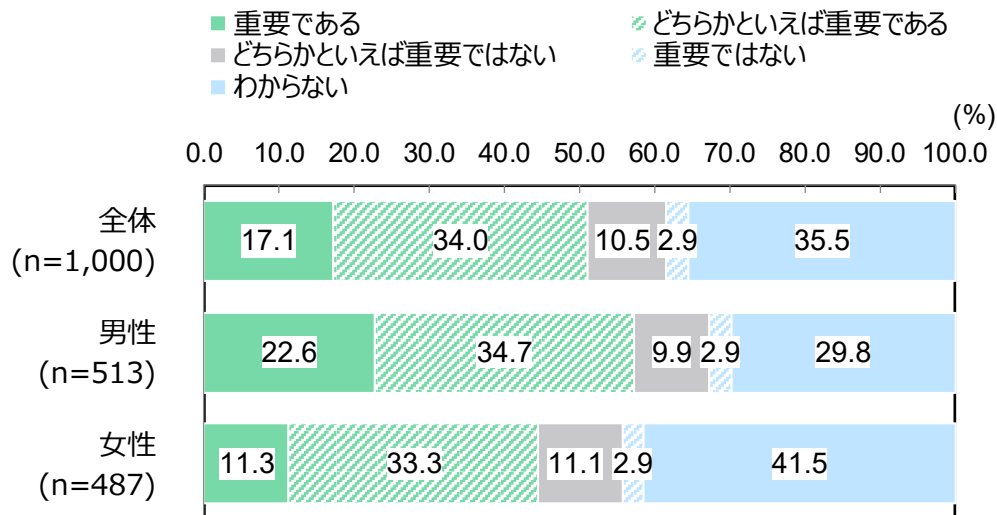
- 国会議員の給料を下げるのに加えて議員の納税を任意ではなく義務化する。
- 国会議員の歳費を減らし、官僚の天下りを禁止し、破った者から財産没収し、国庫に入れる
- 国会議員への給与を減らす(複数)
- 政治家の給料を少し減らす
- 政治家の給与を下げる
- 政府が独自に金を稼ぐ
- 議員の給料を下げる
- 宗教法人からの課税を行う
- 政府の金の使い方を改める
- 職員の費用を減らす
- たばこ税をさらにあげてニコチン中毒者から、税金をさらにとる。また、アルコール中毒にも注目して缶ビール1缶10%ほどの酒税を更にとる。

## 国内の米軍基地に対する考え

女性よりも男性の方が、国内の米軍基地を「重要である」(※)と回答した割合が高い。

※「重要である」と「どちらかといえば重要である」の合計。

質問16：日米安全保障条約では、日本が武力攻撃された場合、日米両国が共同して迅速に対応し、侵略を速やかに排除することとされています。この条約の下、日本国内には米軍基地が設置されています。あなたは、国防の観点から、米軍基地についてどのように考えますか。(選択式(単一))

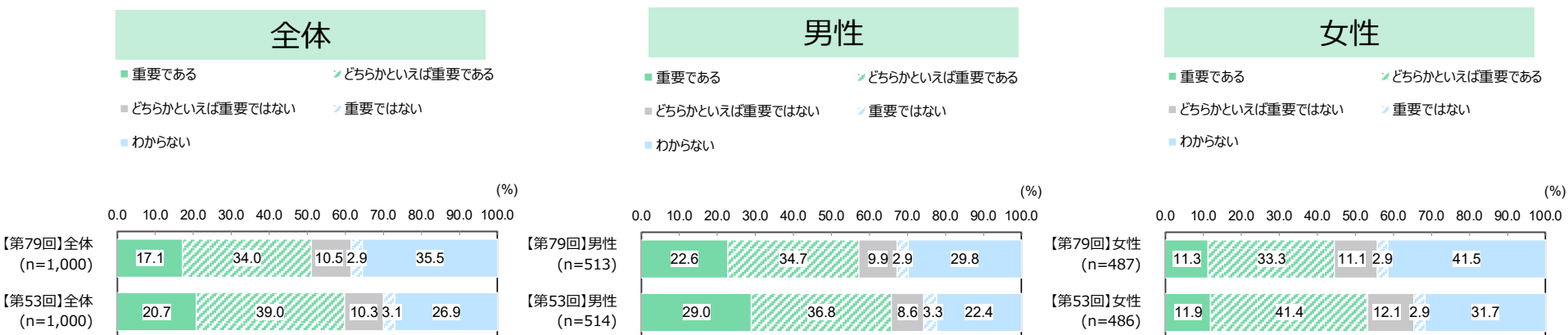


# 国内の米軍基地に対する考え

男女ともに、第53回と比較して「重要である」(※)が減少し、「わからない」が大幅に増加。

※「重要である」と「どちらかといえば重要である」の合計。

質問16：日米安全保障条約では、日本が武力攻撃された場合、日米両国が共同して迅速に対応し、侵略を速やかに排除することとされています。この条約の下、日本国内には米軍基地が設置されています。あなたは、国防の観点から、米軍基地についてどのように考えますか。(選択式(単一))



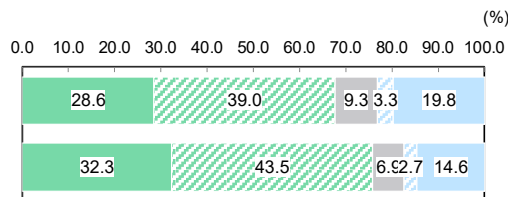
# 国内の米軍基地に対する考え

第53回、第79回ともに、自衛隊の基地・駐屯地近くの自治体での居住経験が「ある」と答えた人は、「ない」と答えた人と比較して、国内の米軍基地が「重要である」と回答した割合が高い。

質問16：日米安全保障条約では、日本が武力攻撃された場合、日米両国が共同して迅速に対応し、侵略を速やかに排除することとされています。この条約の下、日本国内には米軍基地が設置されています。あなたは、国防の観点から、米軍基地についてどのように考えますか。（選択式（単一））

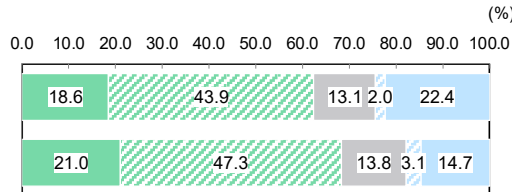
## ある

- 重要である
- どちらかといえば重要である
- どちらかといえば重要ではない
- 重要ではない
- わからない



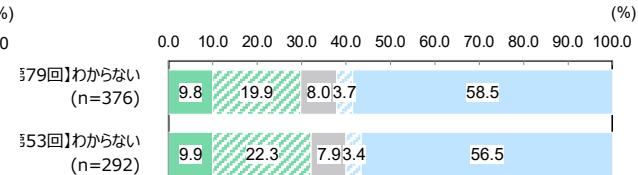
## ない

- 重要である
- どちらかといえば重要である
- どちらかといえば重要ではない
- 重要ではない
- わからない



## わからない

- 重要である
- どちらかといえば重要である
- どちらかといえば重要ではない
- 重要ではない
- わからない



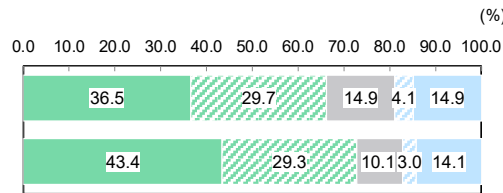
# 国内の米軍基地に対する考え

第53回、第79回ともに、米軍基地・駐屯地近くの自治体での居住経験が「ある」と答えた人は、「ない」と答えた人と比較して、国内の米軍基地が「重要である」と回答した割合が高い。

質問16：日米安全保障条約では、日本が武力攻撃された場合、日米両国が共同して迅速に対応し、侵略を速やかに排除することとされています。この条約の下、日本国内には米軍基地が設置されています。あなたは、国防の観点から、米軍基地についてどのように考えますか。（選択式（単一））

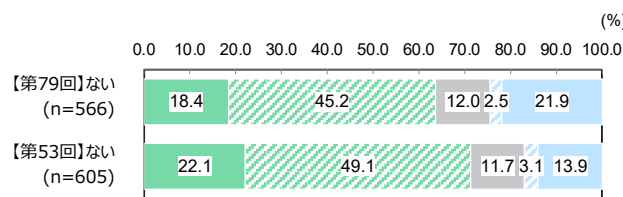
## ある

- 重要である
- どちらかといえば重要である
- どちらかといえば重要ではない
- 重要ではない
- わからない



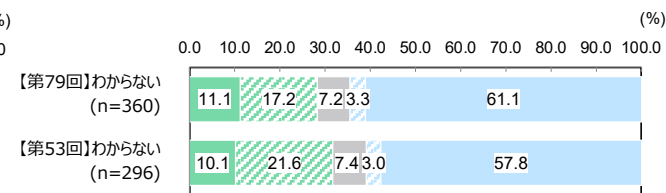
## ない

- 重要である
- どちらかといえば重要である
- どちらかといえば重要ではない
- 重要ではない
- わからない



## わからない

- 重要である
- どちらかといえば重要である
- どちらかといえば重要ではない
- 重要ではない
- わからない



# 詳細

1. 平和とその背景への認識
2. 日本にとっての脅威
3. 安全保障政策に対する考え
4. 自衛隊に対する考え
5. 許容される軍事行動
6. 徴兵制度に対する考え

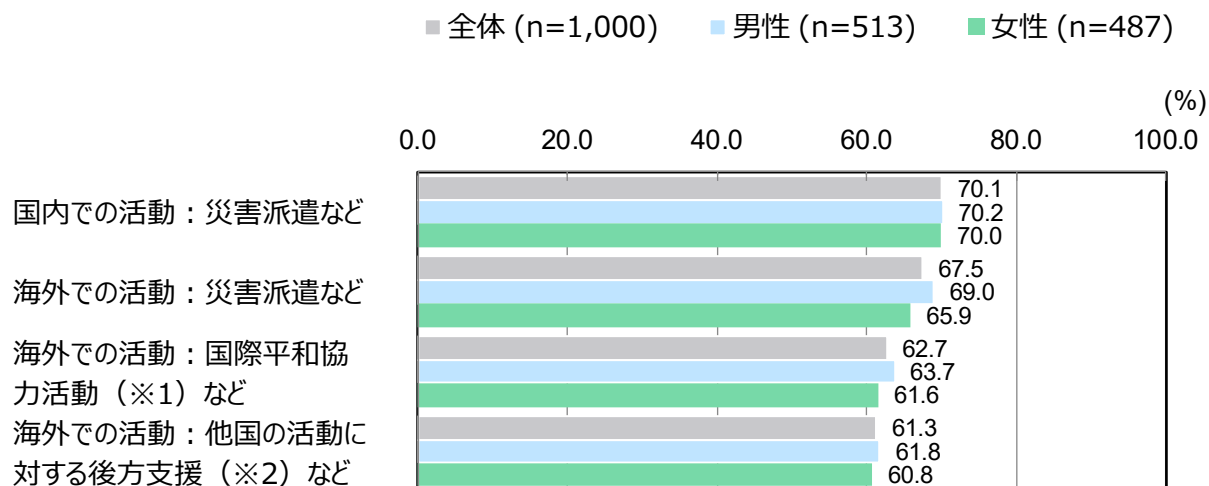
# 自衛隊の活動に対する評価

自衛隊の活動のうち、最も高く評価されているのは「国内での活動：災害派遣など」で、男女ともに約70%が「評価する」(※)と回答。

※「評価する」と「どちらかといえば評価する」の合計。

質問17：あなたは、これまでの自衛隊の活動について、どのように評価しますか。(選択式(単一))

## 「評価する」または「どちらかといえば評価する」と回答した人の割合



# 自衛隊の活動に対する評価

いずれの活動も、全体で第53回よりも「評価する」(※)と回答した割合が減少。

※「評価する」と「どちらかといえば評価する」の合計。

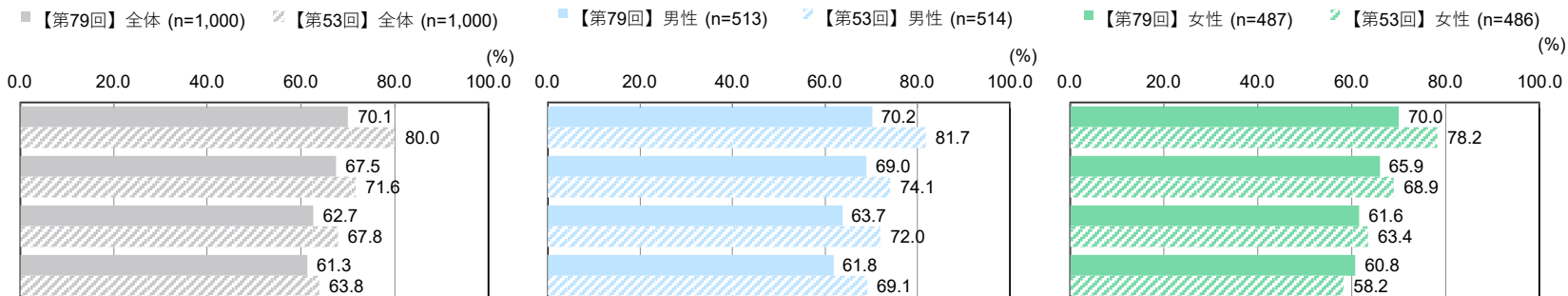
質問17：あなたは、これまでの自衛隊の活動について、どのように評価しますか。(選択式(単一))

「評価する」または「どちらかといえば評価する」と回答した人の割合

全体

男性

女性



※1 国際的な安全保障環境を改善するために国際社会が協力して行う活動のこと。

※2 整備や補給、輸送支援などの活動のこと。

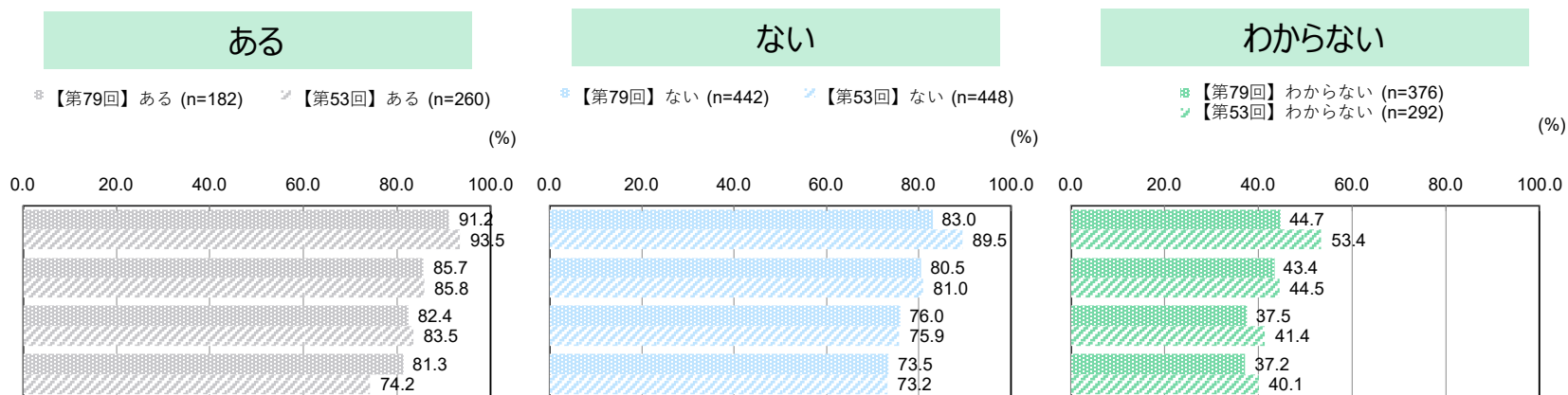
# 自衛隊の活動に対する評価

自衛隊の基地・駐屯地近くの自治体での居住経験が「ある」と回答したグループは、その他のグループと比較してそれぞれの活動を「評価する」(※)と回答した割合が高く、第53回と第79回を比較して目立った減少が見られない。

※「評価する」と「どちらかといえば評価する」の合計。

質問17：あなたは、これまでの自衛隊の活動について、どのように評価しますか。(選択式(単一))

「評価する」または「どちらかといえば評価する」と回答した人の割合



※1 国際的な安全保障環境を改善するために国際社会が協力して行う活動のこと。

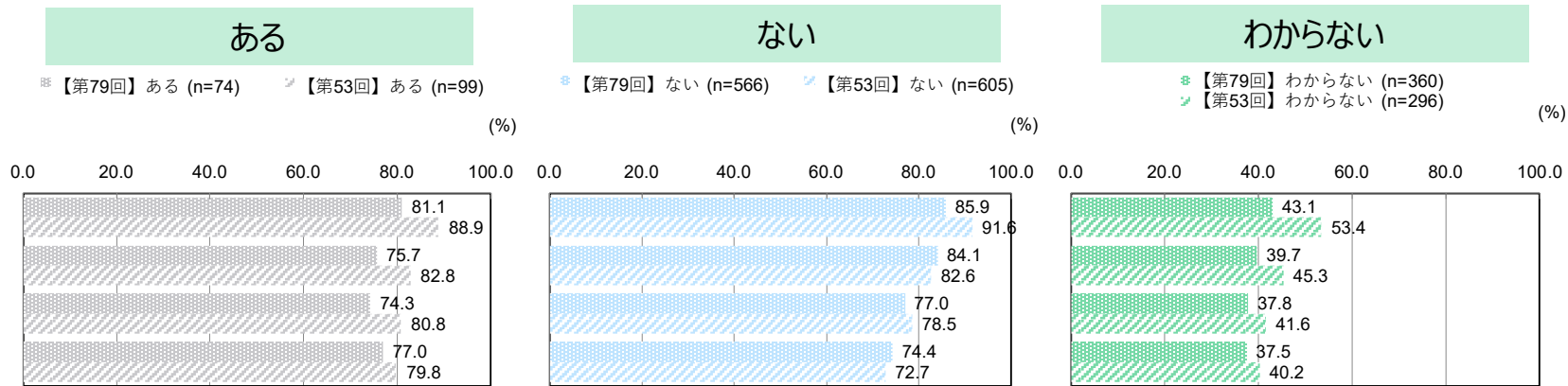
※2 整備や補給、輸送支援などの活動のこと。

# 自衛隊の活動に対する評価

米軍基地・駐屯地近くの自治体での居住経験のあるグループは、同自治体での居住経験のないグループと比較して、自衛隊の活動を高く評価する傾向は見られず、第53回と第79回で肯定的な評価が維持される様子も見られなかった。

質問17：あなたは、これまでの自衛隊の活動について、どのように評価しますか。（選択式（単一））

「評価する」または「どちらかといえば評価する」と回答した人の割合



※1 国際的な安全保障環境を改善するために国際社会が協力して行う活動のこと。

※2 整備や補給、輸送支援などの活動のこと。

# 詳細

1. 平和とその背景への認識
2. 日本にとっての脅威
3. 安全保障政策に対する考え
4. 自衛隊に対する考え
5. 許容される軍事行動
6. 徴兵制度に対する考え

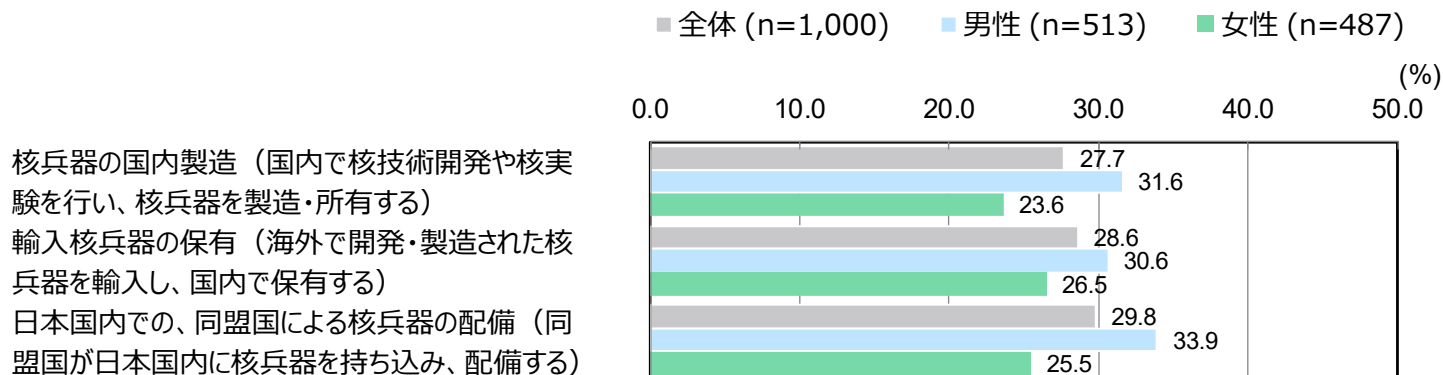
## 核兵器に対する考え（行ってもよい）

いずれの方法についても、女性より男性の方が、「行ってもよい」(\*)と回答した割合が高い。男性に最も許容されているのは「日本国内での、同盟国による核兵器の配備」、女性に最も許容されているのは「輸入核兵器の保有」。

※「行ってもよい」と「どちらかといえば行ってもよい」の合計。

質問18： 現行の条約や憲法、法制度に関わらず、もし仮に、日本が核兵器に対する姿勢を見直す場合、行ってもよい保有方法等について、あなたの考えを教えてください。（選択式（単一））

## 「行ってもよい」または「どちらかといえば行ってもよい」と回答した人の割合



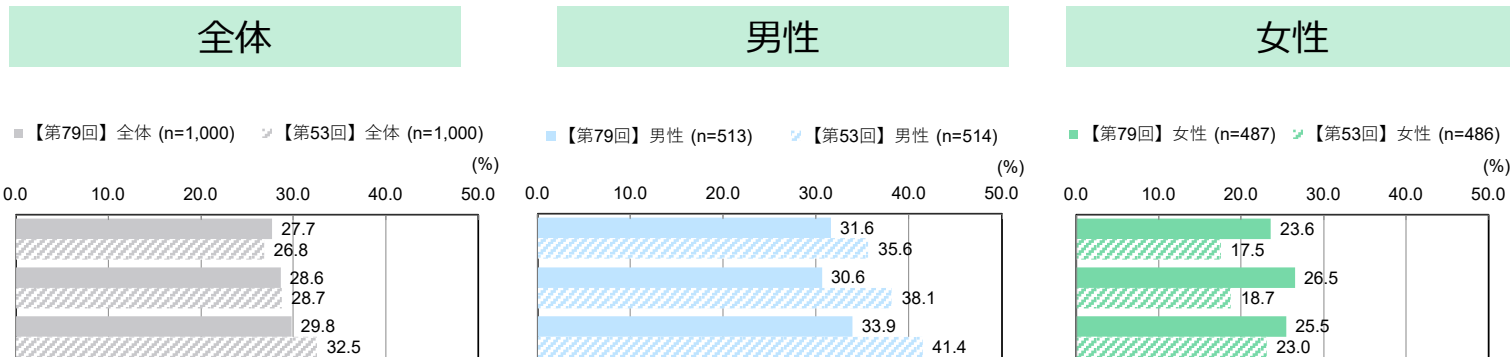
# 核兵器に対する考え（行ってもよい）

第53回ではいずれの方法とも「行ってもよい」(※)と回答した割合は男性が女性を上回っていたが、第79回では男性が減少した一方、女性は増加し、男女差が縮小した。

※「行ってもよい」と「どちらかといえば行ってもよい」の合計。

質問18： 現行の条約や憲法、法制度に関わらず、もし仮に、日本が核兵器に対する姿勢を見直す場合、行ってもよい保有方法等について、あなたの考えを教えてください。（選択式（単一））

「行ってもよい」または「どちらかといえば行ってもよい」と回答した人の割合



核兵器の国内製造（国内で核技術開発や核実験を行い、核兵器を製造・所有する）  
 輸入核兵器の保有（海外で開発・製造された核兵器を輸入し、国内で保有する）  
 日本国内での、同盟国による核兵器の配備（同盟国が日本国内に核兵器を持ち込み、配備する）

# 核兵器に対する考え（行ってもよい）

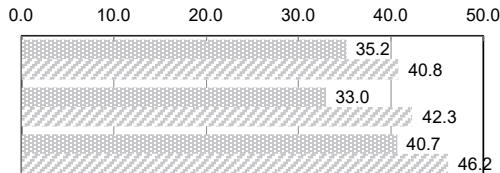
自衛隊の基地・駐屯地近くの自治体での居住経験が「ある」と回答したグループは、それぞれの方法を許容すると回答した割合が第53回よりも減少している一方、「ない」と回答したグループでは増加しており、自衛隊の基地・駐屯地近くの自治体での居住経験による差が縮小した。

質問18： 現行の条約や憲法、法制度に関わらず、もし仮に、日本が核兵器に対する姿勢を見直す場合、行ってもよい保有方法等について、あなたの考えを教えてください。（選択式（単一））

## 「行ってもよい」または「どちらかといえば行ってもよい」と回答した人の割合

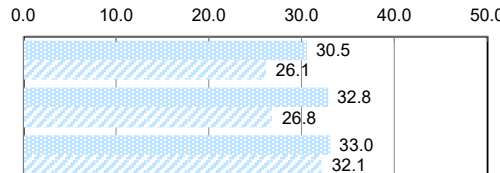
### ある

※ 【第79回】 ある (n=182)    ♪ 【第53回】 ある (n=260)  
(%)



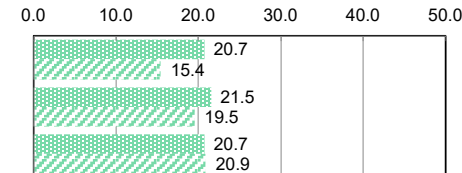
### ない

※ 【第79回】 ない (n=442)    ♪ 【第53回】 ない (n=448)  
(%)



### わからない

※ 【第79回】 わからない (n=376)    ♪ 【第53回】 わからない (n=292)  
(%)



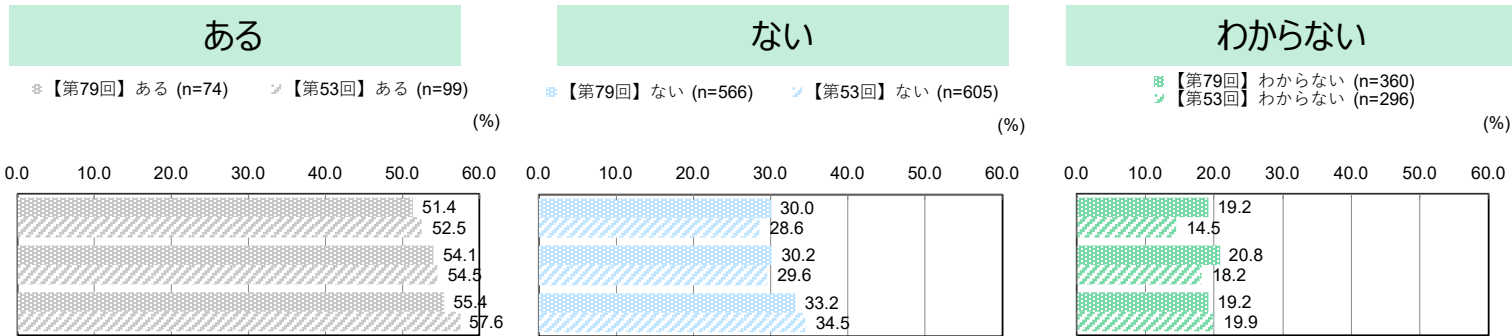
核兵器の国内製造（国内で核技術開発や核実験を行い、核兵器を製造・所有する）  
輸入核兵器の保有（海外で開発・製造された核兵器を輸入し、国内で保有する）  
日本国内での、同盟国による核兵器の配備（同盟国が日本国内に核兵器を持ち込み、配備する）

# 核兵器に対する考え（行ってもよい）

米軍基地・駐屯地近くの自治体での居住経験が「ある」と回答したグループは、その他のグループと比較して、それぞれの方法を許容する割合が高く、第53回と第79回で大きな変化は見られなかった。

質問18： 現行の条約や憲法、法制度に関わらず、もし仮に、日本が核兵器に対する姿勢を見直す場合、行ってもよい保有方法等について、あなたの考えを教えてください。（選択式（単一））

## 「行ってもよい」または「どちらかといえば行ってもよい」と回答した人の割合



# 詳細

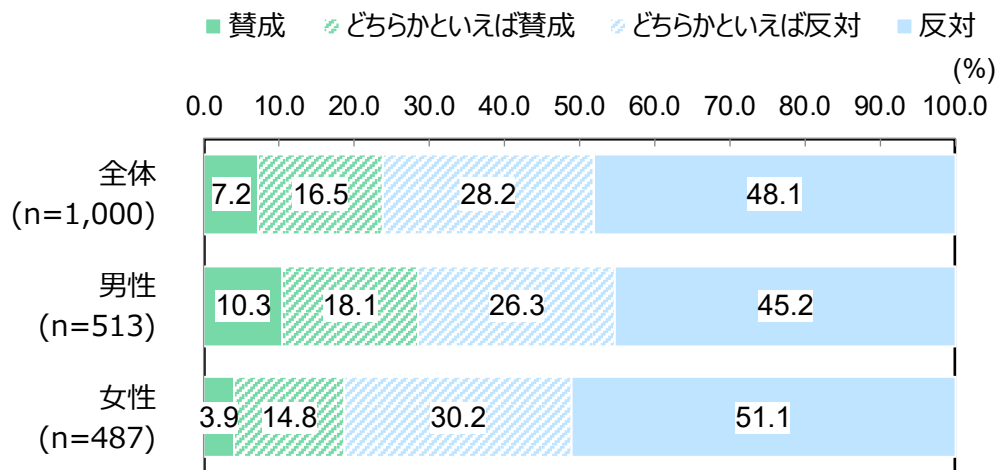
1. 平和とその背景への認識
2. 日本にとっての脅威
3. 安全保障政策に対する考え
4. 自衛隊に対する考え
5. 許容される軍事行動
6. 徴兵制度に対する考え

## 徴兵制度導入の是非

徴兵制に「賛成」(※)と回答したのは、男性では28%、女性では19%と、男女差が見られた。

※「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計。

質問19：もし仮に、現行の憲法や法制度にかかわらず、日本で徴兵制度導入の是非が議論になった場合、あなたの意見を教えてください。(選択式(単一))



# 徴兵制度導入の是非

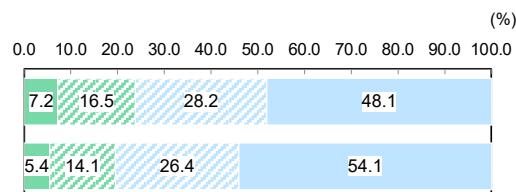
男女ともに、「賛成」(※)と回答した割合がわずかに増加する傾向が見られた。

※「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計。

質問19：もし仮に、現行の憲法や法制度にかかわらず、日本で徴兵制度導入の是非が議論になった場合、あなたの意見を教えてください。(選択式(単一))

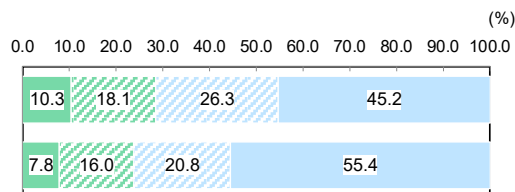
## 全体

■ 賛成    ▨ どちらかといえば賛成    ▩ どちらかといえば反対    ■ 反対



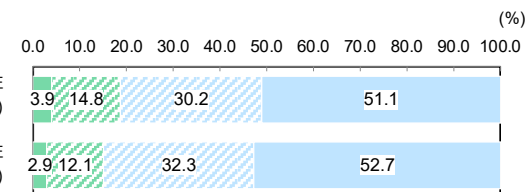
## 男性

■ 賛成    ▨ どちらかといえば賛成    ▩ どちらかといえば反対    ■ 反対



## 女性

■ 賛成    ▨ どちらかといえば賛成    ▩ どちらかといえば反対    ■ 反対



# 徴兵制度導入の是非

自衛隊の基地・駐屯地近くの自治体での居住経験が「ある」と回答したグループは、そのほかのグループよりも、徴兵制に「賛成」と回答した割合が高い。第53回、第79回ともに同様の傾向。

質問19：もし仮に、現行の憲法や法制度にかかわらず、日本で徴兵制度導入の是非が議論になった場合、あなたの意見を教えてください。（選択式（単一））

ある

ない

わからない

■ 賛成    ▨ どちらかといえば賛成    ▩ どちらかといえば反対    ■ 反対

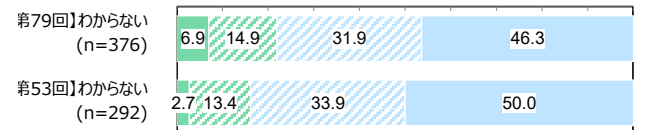
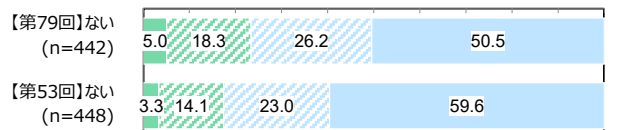
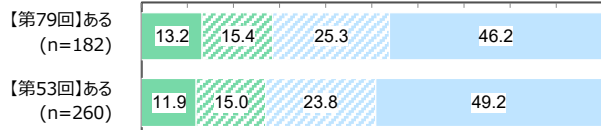
■ 賛成    ▨ どちらかといえば賛成    ▩ どちらかといえば反対    ■ 反対

■ 賛成    ▨ どちらかといえば賛成    ▩ どちらかといえば反対    ■ 反対

(%)  
0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 80.0 90.0 100.0

(%)  
0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 80.0 90.0 100.0

(%)  
0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 80.0 90.0 100.0



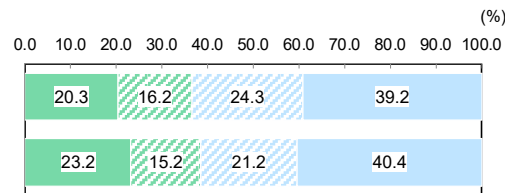
# 徴兵制度導入の是非

米軍基地・駐屯地近くの自治体での居住経験が「ある」と回答したグループは、そのほかのグループよりも、徴兵制に「賛成」と回答した割合が高い。第53回、第79回ともに同様の傾向。

質問19：もし仮に、現行の憲法や法制度にかかわらず、日本で徴兵制度導入の是非が議論になった場合、あなたの意見を教えてください。（選択式（単一））

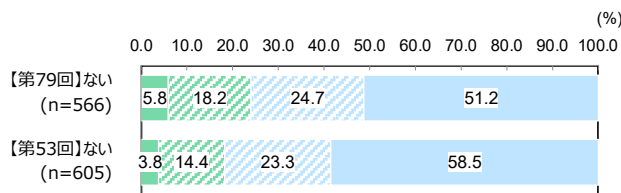
ある

■ 賛成    ▨ どちらかといえば賛成    ▨ どちらかといえば反対    ■ 反対



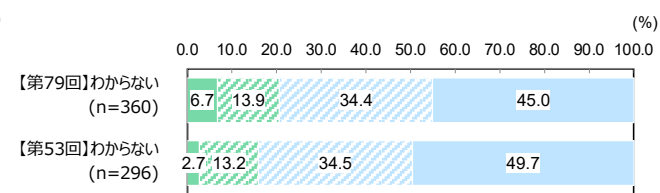
ない

■ 賛成    ▨ どちらかといえば賛成    ▨ どちらかといえば反対    ■ 反対



わからない

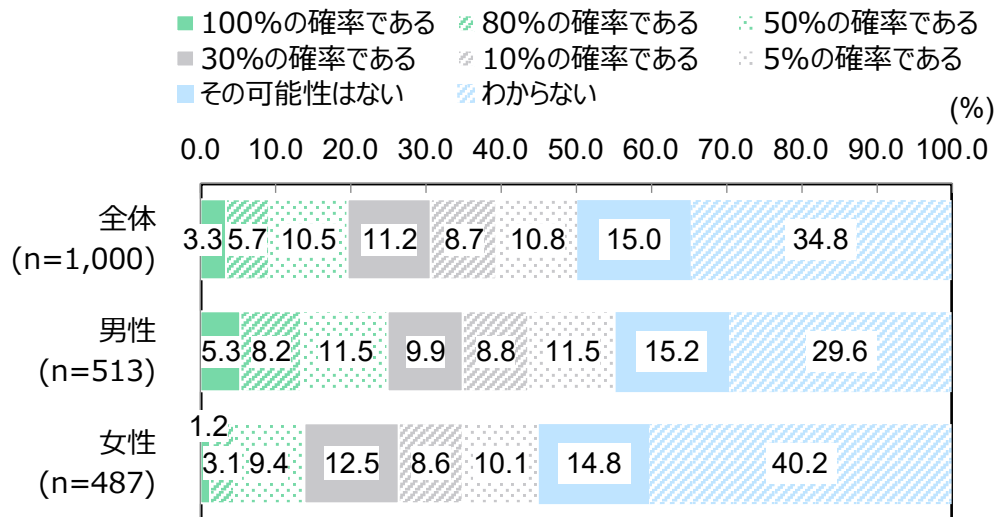
■ 賛成    ▨ どちらかといえば賛成    ▨ どちらかといえば反対    ■ 反対



## 戦地で戦う可能性

国民が戦闘員として戦地で戦う可能性が50%以上あると思っている人は、男性で25%、女性で14%。「わからない」と回答した人は、男性で30%、女性で40%。

質問20：あなたは、今後日本で徴兵制が導入され、ご自身を含む国民が戦闘員として戦地で戦う可能性はどれくらいあると思いますか。（選択式（単一））



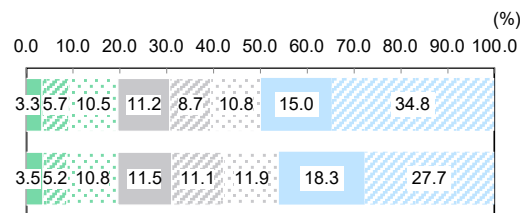
# 戦地で戦う可能性

国民が戦闘員として戦地で戦う可能性が50%以上あると思っている人の割合は、男女ともに第53回から変化が見られなかった。  
「わからない」と回答した人は、男女ともに第53回から増加した。

質問20：あなたは、今後日本で徴兵制が導入され、ご自身を含む国民が戦闘員として戦地で戦う可能性はどれくらいあると思いますか。（選択式（単一））

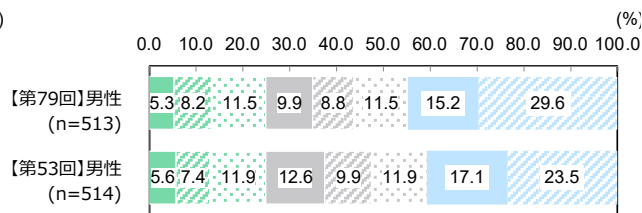
## 全体

- 100%の確率である
- 80%の確率である
- 50%の確率である
- 30%の確率である
- 10%の確率である
- 5%の確率である
- その可能性はない
- わからない



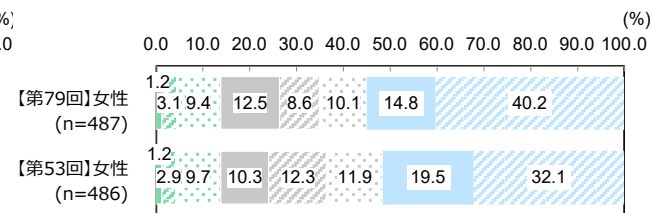
## 男性

- 100%の確率である
- 80%の確率である
- 50%の確率である
- 30%の確率である
- 10%の確率である
- 5%の確率である
- その可能性はない
- わからない



## 女性

- 100%の確率である
- 80%の確率である
- 50%の確率である
- 30%の確率である
- 10%の確率である
- 5%の確率である
- その可能性はない
- わからない

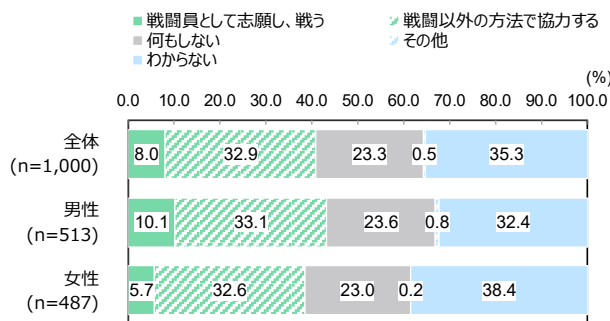


## 戦争・武力衝突時の自身の行動

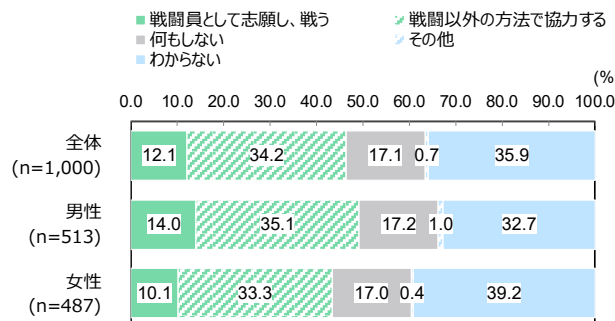
いずれの事態においても、「戦闘員として志願し、戦う」と「戦闘以外の方法で協力する」を合わせて40%～50%が何らかの方法で協力する意向。  
「何もしない」との回答が最も少ないのは、男女ともに、自分の身近な人に危害が及ぶ可能性のある場合。

質問21：日本と外国との間で戦争・武力衝突などにより以下のような事態が生じた時、あなたはどのように行動しますか。それぞれの項目について1つずつ選んでください。（選択式（単一））

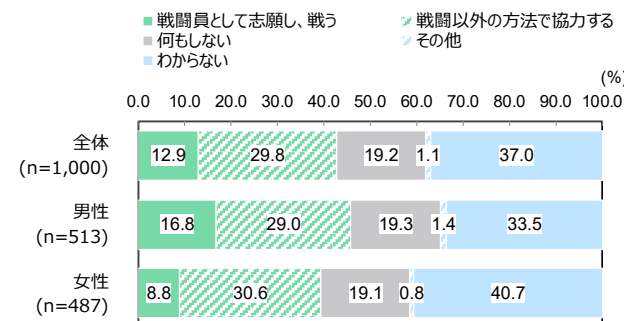
日本を敵国が攻撃し、自分には直接関係のない日本国民に危害が及ぶ可能性のある場合



日本を敵国が攻撃し、自分の身近な人（家族・友人・知人）に危害が及ぶ可能性のある場合



日本を敵国が攻撃し、自分に危害が及ぶ可能性のある場合



# 第79回18歳意識調査 「国家安全保障」 示唆



## 日本と平和

今の日本を取り巻く状況は「平和である」との回答が減少したほか、平和である主な要因では「日米同盟の存在」が減少し、「自衛隊の存在」が増加した。ウクライナ、パレスチナで続く戦争や、今年初めに発生した米国によるベネズエラ攻撃や調査開始直前に始まったイスラエル・米国によるイランへの攻撃等の国際秩序の混迷を受けて、わが国においても不安を感じる若者が増えていることがうかがえる。



## 「わからない」の増加

日本の防衛関係予算の水準や防衛関係費の増額方針、国内の米軍基地についての考え方等、多くの質問で3年前と比較して「わからない」が増加した。直前の国政選挙で投票に行かなかった人や、ボランティアに関心のないグループほど「わからない」が多い傾向は3年前と同様だが、投票やボランティアを行うグループにおいても「わからない」の拡大が見られ、若者が国家安全保障に関して態度を決めかねている可能性がうかがえた。



## 基地・駐屯地の存在

第53回、第79回ともに、自衛隊の基地・駐屯地近くの自治体に居住経験のある人は、国内の米軍基地や自衛隊の活動、徴兵制に対して肯定的な意見を持つ傾向は変わらなかった。また、米軍基地・駐屯地近くの自治体に居住経験のある人も、国内の米軍基地や核兵器、徴兵制に対して肯定的な意見を持つ傾向は変わらなかった。一般に、基地・駐屯地に対する近隣住民の見方には賛否両方あると思われるが、本調査からは、身近に存在することがポジティブに作用している可能性が示唆される。